

「杉並区特別支援教育推進計画」の改定について

「杉並区特別支援教育推進計画」を以下のとおり改定したので、報告する。

1 改定の必要性

令和3年1月の国の中央教育審議会答申に示されたとおり、特別支援教育を取り巻く環境は大きく変化していることから、「杉並区教育ビジョン2022」及び「杉並区教育ビジョン2022推進計画」との整合を図りつつ、特別支援教育の更なる充実に取り組む必要がある。

2 計画期間

令和4（2022）年度から令和6（2024）年度まで（3年間）

3 計画改定の概要

「杉並区教育ビジョン2022」に基づき、下記のとおり「推進のための4つの視点」を設定し、事業内容等について必要な改定を行った。

《推進のための4つの視点》

1 自分に合った学び方

学び方の違いを相互に認め合える、連続性のある学びの内容・方法が充実した「明日も行きたい学校」を作ります。

2 自らの可能性を発見・伸張できる教育環境

すべての学校で必要な合理的配慮を提供し、子ども一人ひとりが自分なりの自己選択、自己決定ができる機会を確保します。

3 自分に合った学びの場

法令、制度に基づき、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応えられる多様な学びの場を整えます。

4 切れ目のない支援

自分らしく生き、多様な他者と共生するために、子ども、保護者及び学校を継続的、包括的に支援できる体制の整備、充実を図ります。

4 今後のスケジュール(予定)

令和4年 6月中旬 ホームページ等で公表
6～8月 保護者等へ周知

杉並区特別支援教育推進計画

令和4～6年度（2022～2024年度）

令和4年5月

杉並区教育委員会

目次

はじめに	1
第1章 計画策定の背景(特別支援教育をめぐる社会の動向)	2
第2章 計画策定の基本的な考え方	4
第3章 特別支援教育推進計画(令和元～3年度)の取組の成果と課題	10
第4章 計画の内容 4つの視点と主な事業	
1 計画の体系と視点	30
2 視点の内容	
視点1 自分にあった学び方	
学び方の違いを相互に認め合える、連続性のある学びの内容・方法を充実させ、「明日も行きたい学校」をつくっていきます。	31
視点2 自らの可能性を発見、伸長できる教育環境	
すべての学校で必要な合理的配慮を提供し、子ども一人ひとりが自分なりの自己選択、自己決定ができる機会を確保します。また、特別支援教育に関わるすべての人と機関の当事者意識の醸成を図ります。	37
視点3 自分にあった学びの場	
特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに応えることができるよう法令・制度に基づき重層的で多様な学びの場を整えます。	41
視点4 切れ目のない支援	
自分らしく生き、多様な他者と共生するために、子ども、保護者及び学校を継続的、包括的に支援できる体制の整備、充実を図ります。	45
第5章 計画の推進に向けて	49
資料編	50

はじめに

区では、個別の教育的ニーズのある子ども一人ひとりに応じた質の高い学びを実現できる教育環境の整備や、子どもや保護者に寄り添う相談・支援体制の整備などについて、これまで、平成21年度から5次の特別支援教育推進計画を策定し、その推進に取り組んできました。

この間、国では、障害のある子どもと障害のない子どもができるだけ同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に対して自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備するインクルーシブ教育システムの構築の推進に取り組んでいます。

また、東京都教育委員会は、令和4年度から特別支援教育をめぐる社会状況の変化等を踏まえ、「共に学び支えあう共生社会“インクルーシブ東京”の実現」の実現を目指すとする「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画」を公表し、令和4年度からの取組を示しています。

令和3年11月に策定した「杉並区教育ビジョン2022」では、その「策定にあたっての基本的な考え方」として、新しい教育のあり方を考えるため、「一人ひとりが自分らしく生きるという、人としての尊厳を尊重するとともに、多様性（ダイバーシティ）と社会的共生（ソーシャルインクルージョン）を基本に据える」とことと併せ、「学びを通して誰一人取り残されない社会を実現するための条件と環境を整える」ことを今後の区の教育を支える教育行政の取組の方向性の1つとしています。

杉並区教育委員会として、こうした「杉並区教育ビジョン2022」の方針及び国や都の動向などを踏まえ、個別の教育的ニーズのある子ども一人ひとりの教育環境の一層の充実を図るため、新たな杉並区特別支援教育推進計画を策定することとしました。

本計画の推進により、すべての子どもがいきいきと学校生活を送り、一人ひとりが自らの可能性を発見・伸長できるよう、努めてまいります。

引き続きの皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

第1章 計画策定の背景(特別支援教育をめぐる社会の動向)

1 国の動向

- 障害者権利条約の署名に先立つ平成19年4月、国はこれまでの特殊教育から特別支援教育への移行を実施し、「特別支援教育は共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている」という理念を掲げました。
- 平成19年9月、障害者権利条約に署名し、同条約の発効(平成26年2月)に向けて、障害者基本法の改正(平成23年8月)や障害者差別解消法の制定(平成25年6月)を行いました。これに伴い、平成24年7月には中央教育審議会初等中等教育分科会が「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」において、障害者権利条約に基づくインクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援教育を着実に進めていく必要があるとの指針が示されました。
- その後、特別な支援を受ける子供の増加やインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組の進展等を踏まえ、令和4年1月の中央教育審議会答申では「新時代の特別支援教育の在り方」として、(1)障害のある子供の学びの場の整備・連携強化、(2)特別支援教育を担う教師の専門性向上、(3)関係機関との連携強化による切れ目ない支援の充実などの方向性を示しています。

2 都の動向

- 都は、令和3年3月に「未来の東京」戦略を策定し、「インクルーシブシティ東京」を実現するために様々な場で多様な人が共に支え合う環境づくりを推進することの必要性を示しました。また、同時期に発表された「東京都教育施策大綱」では、柔軟な仕組みによる多様な学びの場を創出し、多様な個性を持つ子どもたちが互いに認め合い、尊重し合いながら学ぶことができる「教育のインクルーシブの推進」が重要であることが述べられています。
- こうした動向を踏まえ、都教育委員会は「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画」(令和3年11月)において、「インクルーシブシティ東京の実現に向けて、障害のある幼児・児童・生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばし、それぞれの状況に応じた自立と社会参加を促進するためには、子どもたちにとって最適な学びの場につなぐ就学相談機能の充実や、一人ひとりの教育的ニーズに応える指導を提供できる多様な学びの場の充実・整備とともに、障害のある児童・生徒とない児童・生徒の交流及び共同学習の促進を、着実に進めていくことが重要である」ことを示しています。

3 区の動向

- 区教育委員会は、国や都の障害者施策や教育施策等の動向を踏まえ、障害のある児童・生徒等一人ひとりの健やかで豊かな成長・発達を支援するために、平成21年度より令和3年度まで5次にわたる「杉並区特別支援教育推進計画」を策定・実行してきました。
- 杉並区特別支援教育推進計画（令和元～3年度）では、すべての小中学校に特別支援教室を設置することや特別支援学校及び特別支援学級の児童・生徒の増加に対応することをはじめ、専門性の維持・向上を図る教職員研修の充実、教員OBと心理士で構成する「教育支援チーム」による各学校巡回支援の実施、特別支援学級介助員や通常学級支援員等の配置などの取組を着実に実施してきたところです。
- 「杉並区教育ビジョン2022」では、誰もが教育の当事者となるうえで、共に尊重し、大切にしたいこととして、「学び合い、信頼をつくり、共に生きる」、「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」、「誰もが社会の創り手として生きる」ことを掲げています。併せて、今後の区の教育を支える教育行政の取組の方向性として、区の基本構想に掲げた「共に認め合い、みんなで作る学びのまち」の実現に向け、『『人生100年時代』を自分らしくいきいきと生きるための学びを支援する』、「学びを通して誰一人取り残されない社会を実現するための条件と環境を整える」という視点に立ち、一人ひとりの主体的な実践を後押しすることを示しています。

第2章 計画策定の基本的な考え方

1 策定の目的

令和3年1月、国の中央教育審議会答申では、「令和の日本型学校教育の構築を目指して」と題して、「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を理念に掲げ、「一人一人の児童・生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」と述べています。

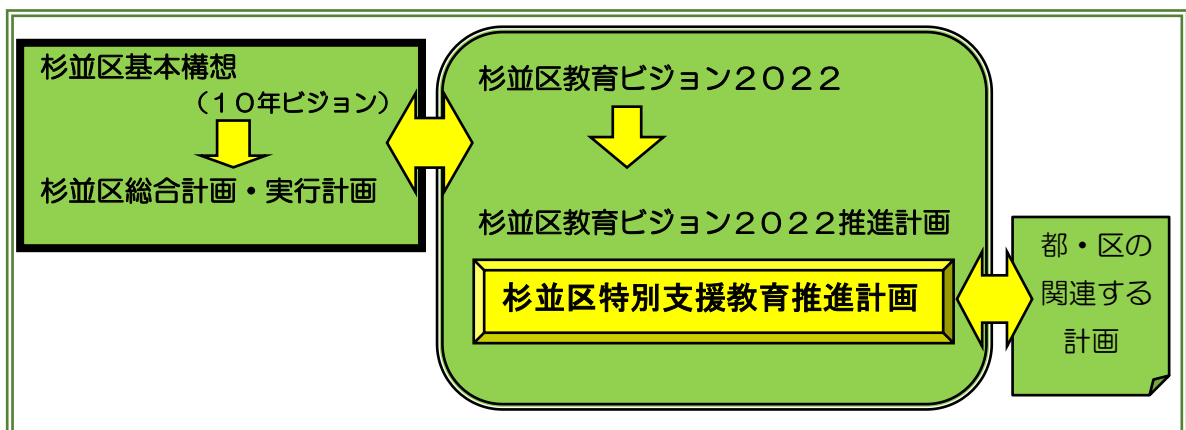
この答申で示された子どもの可能性の発見と伸長、個に応じた学び（指導と支援）、多様性の受容と協働などのキーワードはまさに、区の特別支援教育がこれまで大切にしてきた理念と方向性を同じくするものです。

第1章で示したとおり本計画をめぐる社会的な状況は大きく変化しており、今後、多様な人々が互いを尊重しながら協働する共生社会は、進展する方向にすすんでいくことが予想されます。そのような中、インクルーシブ教育システムの着実な推進のため、特別支援教育は、共生社会の実現についてその一翼を担うものであることは言うまでもありません。

このような背景と、これまでの5次にわたる計画に基づいて取り組んできた区の特別支援教育の取組の成果と将来への展望を踏まえて、新たな計画を策定します。本計画は、社会状況の変化に柔軟かつ適切に対応しながら、特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの健やかな成長・発達を支援する「誰もが、自分に合った学びによって、自らの可能性を発見、伸長できる」特別支援教育の区の取組を定めるものです。

2 計画の位置付け

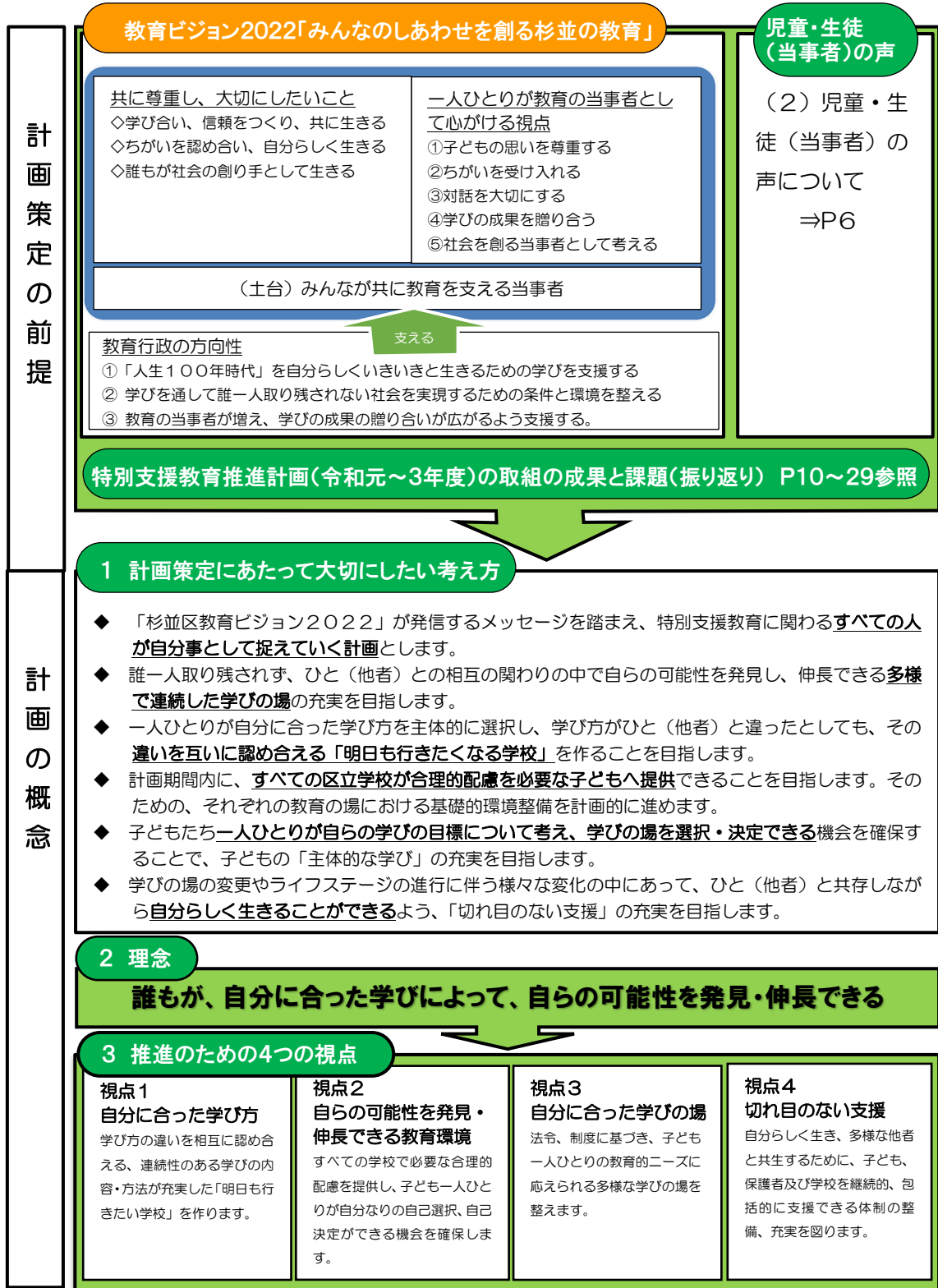
本計画は、特別支援教育が関連する法令及び国や都の計画等と整合性を図りつつ、「杉並区教育ビジョン2022」の行動計画である「杉並区教育ビジョン2022推進計画」に基づき、本区における特別支援教育の一層の推進・充実を図るものです。



3 計画策定における考え方

(1) 計画策定の前提と考え方

「杉並区教育ビジョン2022」及び「杉並区教育ビジョン2022推進計画」に基づく特別支援教育推進計画の策定にあたり、区が大切にしたい考え方、理念、計画の推進のための視点は次のとおりです。



(2) 児童・生徒（当事者）の声について

①アンケートの実施について

本計画の理念である「誰もが、自分に合った学びによって、自らの可能性を発見・伸長できる」教育が、児童・生徒を主役としたものであるためには、特別支援教育を利用する児童・生徒の声を計画の取組に活かしていくことが大切であると考えました。

このため、特別支援学校（済美養護学校）、区立小中学校の特別支援学級、特別支援教室、通級指導学級を利用するすべての児童・生徒に現在の学びの環境と今後の希望について、任意回答によるアンケートを依頼し、回答してもらいました。

その集計結果は以下のとおりです。

対象	児童・生徒数(人)		アンケート 調査票※
	配布数	回答数	
特別支援教室・通級指導学級（小1～4年生）	584	380	資料4（2）①
特別支援教室・通級指導学級（小5～6年生）	267	147	資料4（2）②
特別支援教室・通級指導学級（中1～3年生）	233	131	資料4（2）③
特別支援学級（小1～3年生）	92	57	資料4（2）④
特別支援学級（小4～6年生）	98	60	資料4（2）⑤
特別支援学級（中1～3年生）	99	79	資料4（2）⑥
特別支援学校（小学部）	105	48	資料4（2）⑦
特別支援学校（中学部）	46	36	資料4（2）⑧
合 計	1524	938	

※各アンケート項目については、資料4（2）①～⑧を参照ください。

※児童・生徒の各アンケートの回答の概要は資料編「4 児童・生徒の声」を参照ください。

※アンケートにおいては、保護者からのご意見等の欄も設け、多数のご意見をいただきました。

②アンケート結果について

アンケートにより、現在の学びに対する意見や感想、希望について多様な意見が示されました。その1つ1つの意見は、児童、生徒、そして保護者の大切な想いや願いの表れであり、今後、一人ひとりの学びの充実を目指す本計画にとっては、同趣旨の多い意見であっても単一の意見であっても、大切な意見です。

アンケートの「学校生活において、どのような事が楽しいか」聞いた項目では、「授業」や「勉強」に代表される学習や学びに関するフレーズが多く使われていました。学校が学ぶ場であり、学ぶことが楽しいと回答する子どもが一定数いることは、一人ひとりの教育的ニーズにこたえるために、これまで学校や区が行ってきた特別支援教育をはじめとする取組の成果の一端が示されているのではないかと考えるところです。

授業以外のことに関するフレーズでは、「休み時間」「中休み」「遊び」などが多く使われていました。また個別の意見においては、「休み時間が多い学校」「授業がなくなった方がいい」などの回答も見られました。これらのことから、子どもたちが休み時間に遊ぶことを楽しむ様子が想像できます。そして、学校生活（主に授業の時間）において、学習スタイルに窮屈さや息苦しさを感じている子どももいるだろうということも想像できます。なぜ「遊び」は楽しいのでしょうか。理由の一つに、「遊び」が自発的な欲求（やりたい、なんだろう）からのスタートであることが考えられます。そしてもう一つの理由は、「遊び」には様式化（ルール）と脱様式化（逸脱）の往還があることだと考えます。これらのことを踏まえて「学び」を「遊び」のように楽しいものとするには、どのような仕掛けをすればよいか、就学前教育の「遊びを通した学び」の実践について知ることや「学びの構造転換」を理解することなどを通して考えることがヒントになりそうです。

アンケートの「どのような学校がいいか、理想的な学びの場はどのような場所か」という問いへの回答では、「授業が楽しくなるといい」「パソコンを使う授業が」「体を動かす…」「図工の…」「ゲームの…」など、授業の質の向上や多様な学びのあり方について、様々な思いや考えが見られました。「学び」をこれからどのように工夫・改善していくか考える際には、これらの回答を大切にしたいところです。

さらに、「人との関わり」に関するフレーズを含む回答も数多くありました。このことは、子どもたちにとって、学校は「自分を成長させてくれる学びの場」であることと同じくらい「よりよい人間関係を築く場」であることが示されていると考えられます。併せて、「その他のフレーズ」にある「いじめがない」「悪口やけんかがない」といった回答も踏まえれば、理不尽に心身が傷つけられたりすることがなく、安心して安全な学校生活が求められていると考えます。

これら、当事者の声は、「自分に合った学びの場で、安心してチャレンジできる仕組みがあること」や、「多様な学び方、学びの内容や方法が充実した“明日も行きたい学校”があること」、「多様な他者との関わりの中で自分らしく生きること」を視点とする本計画の取組に織り込まれています。

推進のための4つの視点のイメージ(例)

理念

「誰もが、自分に合った学びによって、自らの可能性を発見・伸長できる」

● 自分に合った学び方



連続性のある学びの内容・方法が充実した「明日も行きたい学校」がある

● 自らの可能性を発見・伸長できる教育環境



子ども一人ひとりがその時点の教育に応じて自己選択、自己決定ができる

● 自分に合った学びの場



一人ひとりの教育的ニーズに応えられる多様な学びの場がある

● 切れ目のない支援



自分らしく生き、多様な他者と共生する

4 計画の対象

本計画の対象は、区内の学校及び就学前教育施設で学ぶ障害等の理由により、個別の教育的ニーズがある児童・生徒等とします。そして対象の児童・生徒等（特別支援教育）の充実を図るための取組を定める計画とします。

なお、行政機関及び事業者の義務である「合理的配慮」については、教育におけるすべての領域で、その実施と質の充実を図ることが必要であることから、本計画においては、合理的配慮の充実・推進に関して個別の取組は設けず、計画内のすべての取組において「合理的配慮」（「基礎的環境整備」を含む）の実施に加え、その充実を図るものとします。

5 計画期間

本計画は、「杉並区教育ビジョン2022推進計画」と整合を図るため、計画期間を「杉並区教育ビジョン2022推進計画」と同じ令和4～6年度の3年間とします。

ただし、今後、「杉並区教育ビジョン2022推進計画」を含む区の上位計画の改定等を踏まえ、必要に応じて見直しを図るものとします。

第3章 特別支援教育推進計画(令和元～3年度)の取組の成果と課題

「杉並区特別支援教育推進計画 令和元～3年度（2019～2021 年度）」では、計画の理念を「共生社会の形成に向け、障害のある児童・生徒等一人ひとりの能力を最大限に伸ばして、社会に参加・貢献できる人間を育成すること」とし、「視点1 一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い教育を実現するために」「視点2 就学前から切れ目のない支援をするために」「視点3 地域社会との関わりを拓げるために」を柱として特別支援教育の推進に取り組んできました。その成果と課題等は下記のとおりです。

1. 推進プラン1 特別支援教育の校内支援体制の充実を図ります

(1) 校内委員会の充実

取組（令和元～3年度目標）	成果（実績）
<p>○校内委員会の計画的開催と充実（PDCAサイクルを軸にした機能的運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別指導計画」、「学校生活支援シート」の作成（特別支援教室、通級（難聴・言語障害）による指導、特別支援学級の対象・在籍児童・生徒は100%作成）・評価・修正の推進 ・特別支援教育支援把握状況表の活用 ・特別支援学級及び特別支援教室の利用（入退級（室）等）に関する検討と支援の検証 ・合理的配慮の提供に関する検討 ・副籍制度を含めた交流及び共同学習の推進 	<p>○校内委員会の計画的開催と充実（PDCAサイクルを軸にした機能的運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての特別な配慮や支援の必要な児童・生徒について「個別指導計画」、「学校生活支援シート」は平成30年度以降、全小・中学校で作成しています。 ・各校において特別支援教育支援把握状況表又は、同一の機能を持つ資料を作成し、校内委員会等の説明資料として活用しています。 ・特別支援学級及び特別支援教室の利用（入退級（室）等）に関する検討と支援の検証について、各校で定期的開催される校内委員会において、ルールを定め実施しています。 ・合理的な配慮の提供については、本人や保護者の申請に基づいて、イヤーマフや耳栓の使用、配布プリントにルビを振る等の対応を行っています。また、各校の取組を取りまとめて特別支援教育コーディネーター研修で示すことで、他校と情報共有し、合理的配慮の提供に関する検討や充実を図っています。 ・各設置校にて交流及び共同学習を特別支援学級の教育課程に位置付け、それぞれ取組を行っています。交

	<p>流及び共同学習の実施延べ時数は学校によって差があり、学年で1時間だけの学級、学年で30時間、学級全体で65時間の交流の取組を行っている学級があります。内容として、集会への参加、行事に向けた準備・練習の段階から合同で行うなど、各校の実態に応じて計画、実施しました。</p> <p>また、副籍交流は、以下のとおりの実施状況です。</p> <p>令和元年度：直接交流 200件、間接交流 30件 令和2年度：直接交流 21件、間接交流 39件 令和3年度：直接交流 42件、間接交流 86件</p>
評価と課題	
<p>「個別指導計画」、「学校生活支援シート」の策定・運用は全小中学校で標準化され、各校での児童・生徒の支援に活用されています。しかし、個別支援計画の評価・修正については、年度末の評価のみという学校もあり、児童・生徒一人ひとりの変化を確認するためには、運用等の一層の充実が必要です。</p> <p>各校において定期的に行われる校内委員会が、児童・生徒の支援に向けた検討の場となっています。今後は、一人ひとりの児童・生徒へのきめ細かな支援のため、スモールステップによる目標設定や、具体的な手立ての提案、「個別指導計画」の適時・適切な見直しを引き続き行うとともに、より適切な支援を提供できるよう一層の取組の充実を図ることが必要です。</p> <p>また、合理的配慮の充実については、これまで特別支援教育の取組としてきましたが、今後は学校の標準の取組としての位置付けとする必要があります。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P34 視点1 ■副籍交流の充実</p> <p>⇒P34 視点1 ■交流及び共同学習の充実</p> <p>⇒P37 視点2 ■本人及び保護者が意見表明する場の設定</p>	

(2) 教育支援チーム等による学校等支援の充実

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
<p>○教育支援チームの巡回支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校及び区立子供園の校内支援体制構築への指導・助言 ・すばるⅡ及び「学校生活支援シート」を活用した切れ目のない支援への指導・助言 	<p>○教育支援チームの巡回支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画期間内に計1,624回(令和元年度290回、2年度661回、3年度673回)実施し、各学校における「個別指導計画」、「学校生活支援シート」作成状況の確認及び作成等の支援を行いました。また、すばるⅡについて活用状況の確認及び活用促進のための支援を行っています。

○専門家チームの巡回支援	○専門家チームの巡回支援 ・教育支援チームの報告を受け、困難事案解決のため、専門家チームの心理士や指導主事が校内委員会に参加等の支援を実施しています。
評価と課題	
校内支援体制の構築については、計画期間内に各校において校内委員会の定期的な開催や「個別指導計画」の作成などが行われています。今後は、校内支援体制の質（校内委員会で検討される内容や個別支援計画の記載内容、「学校生活支援シート」の保護者との協働による作成、「すばるⅡ」の効果的な活用方法など）のより一層の充実を行えるような教育支援チームの巡回支援に取り組む必要があります。	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P40 視点2 ■教育支援チームによる学校支援の充実	

(3) 学習支援教員・通常学級支援員等の配置と活用

取組（令和元～3年度目標）	成果（実績）
○学習支援教員 ・小・中学校全校配置 ○通常学級支援員 ・36人 ○介助員ボランティア ・年間5,000日 ○区費教員の配置	○学習支援教員 ・全小・中学校に配置しました。（令和3年度50人） ○通常学級支援員 ・原則として小学校全校、中学校は身体介助を必要とする生徒の在籍校に配置しました。（令和元年度38人、令和2年度42人、令和3年度50人） ○介助員ボランティア ・地域の特別支援教育に理解ある方に登録してもらい、学校からの要請により活動できる日に概ね4時間程度校内で活動するボランティアを配置しました。（令和元年度4,404日 令和2年度3,606日 令和3年度5,169日） ○区費教員の配置 ・特別支援教室巡回指導教員として拠点校に配置しました。（令和元年度9人、令和2年度6人、令和3年度2人）
評価と課題	
学習支援教員は全小・中学校に配置、通常学級支援員は、原則小学校全校に配置しています。また特別支援教室の全校への配置から、3年が経過し、各学校の特別支援教室の運営方法は一定程度、確立してきたことから、施策としての区費教員の特別支援教室巡回指導教員への配置については令和3年度で終了の予定です。新型コロナウイルス感染症の影響等による学	

校行事の中止等も影響し、近年の介助員ボランティアの稼働日数は減少していますが、地域で支える学校という観点から、特別支援教育の担い手の一層の確保が必要です。

杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組

- ⇒P38 視点2 ■通常学級介助員ボランティア等の活用
- ⇒P39 視点2 ■学習支援教員、通常学級支援員等の活用

(4) 校内研修の充実による支援体制の推進

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○校内研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童・生徒の支援事例に基づく事例研修 ・特別支援教室の運営等に関する研修 ・障害者差別解消法に基づく合理的配慮の提供等に関する研修 	<p>○校内研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童・生徒の支援事例に基づく事例研修を実施しました。 令和2年度：2回 令和3年度：1回 ・特別支援教室の運営等に関する研修を実施しました。 令和元年度：5回 令和2年度：3回 令和3年度：3回 ・障害者差別解消法に基づく合理的配慮の提供等に関する研修を実施しました。 令和2年度：1回 令和3年度：1回
評価と課題	
<p>校内研修については、各校の教職員のニーズにより内容を決め、教育支援チームや特別支援教育課指導主事による支援を行うことで、教職員の特別支援教育に関する理解を深め、校内支援体制の構築を推進することができました。今後は、校内支援体制の充実度や特別支援教育に対する教職員の意識・資質について学校個々の質を高めるとともに、学校間の格差が発生することがないように、校内研修のより一層の充実に向けた支援を積極的に行うことが必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P40 視点2 ■教育支援チームによる学校支援の充実	

2 推進プラン2 支援が必要な児童・生徒への指導の充実を図ります

(1) 全教員の特別支援教育の視点での指導方法の改善

取組（令和元～3年度目標）	成果（実績）
<p>○職層研修（管理職、中堅教諭、初任者等）における特別支援教育研修を実施</p> <p>○選択研修における特別支援教育研修を実施</p> <p>○教育支援チームや区内指導教諭等を活用した全教員の専門性及び指導力向上に資する取組</p>	<p>○職層研修（管理職、中堅教諭、初任者等）における特別支援教育研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職研修を実施しました。 参加者数：70人(令和元～3年度、各年11月実施) ・中堅教諭等資質向上研修を実施しました。 参加者数 令和元年度：58人 令和2年度：72人 令和3年度：103人 ・初任者研修を実施しました。 参加者数 令和元年度：110人 令和2年度：87人 令和3年度：101人 <p>○選択研修における特別支援教育研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の特別支援教育研修を実施しました。 令和元年・2年度：各2回 令和3年度：1回 参加者数 計5回：延219人 <p>○教育支援チームや区内指導教諭等を活用した全教員の専門性及び指導力向上に資する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問の際の授業観察のフィードバック・校内研修、校内委員会への参加を通じた各校の教員の資質向上の取組をしました。
評価と課題	
<p>各職層別の特別支援教育に関する研修に加え、校内研修等の機会に教育支援チームの助言や特別支援教育コーディネーターを対象とした研修の実施により、全教職員に対して、特別支援教育の視点による指導方法等の改善に取り組みました。都の特別支援教室ガイドラインが令和3年3月に改定されたことも踏まえ、今後、特別支援教育コーディネーターの力量をさらに向上させることで、校内委員会の機能強化をすすめることが必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P32 視点1 ■特別支援学校・学級担任の資質・能力向上</p>	

(2) 特別支援教育コーディネーターの資質の向上

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○経験年数別研修(3年未満・3年以上)の実施</p> <p>○特別支援教育コーディネーター連絡会の開催</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実に向けた研修</p> <p>○特別支援教育コーディネーター候補者の育成</p>	<p>○経験年数別研修(3年未満・3年以上)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター研修を実施しました。 <p>令和元年度：5回(うち3回は経験年度別) 令和2年度：3回 令和3年度：5回</p> <p>○特別支援教育コーディネーター連絡会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター研修と合わせ、連絡・協議会を開催しました。 <p>○特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実に向けた研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターの専門的な知見の向上により、個人に対する支援の組立てを手厚くすることができるようになりました。 <p>○特別支援教育コーディネーター候補者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援チームが各校を巡回することにより管理職や教職員へ授業観察のフィードバック、年間の特別支援教育の取組について、ヒアリングを通じた働きかけによるコーディネーター候補者の育成を行っています。
評価と課題	
<p>毎年行われる特別支援教育コーディネーター研修や教育支援チームの巡回時のフィードバックを通じて、各校において果たすべき業務の内容や求められる役割等について理解が進み、児童・生徒に対する支援の充実が進みました。今後、特別支援教育コーディネーターの力量をさらに向上させることで、校内委員会の機能強化をすすめることが必要です。</p>	
<p>杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組</p>	
<p>⇒P38 視点2 ■特別支援教育コーディネーターの資質向上</p>	

(3) 特別支援教室の巡回指導教員・特別支援教室専門員の専門性の向上

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○巡回指導教員主任会の開催</p>	<p>○巡回指導教員主任会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校特別支援教室拠点校の校長・主任連絡協議会を開催しました。 <p>令和元年度：延6回</p>

<p>○巡回指導教員等対象の専門研修</p> <p>○特別支援教室専門員等対象の研修(連絡会)</p>	<p>令和2年度：延9回 令和3年度：校種別に概ね2か月に一度開催</p> <p>○巡回指導教員等対象の専門研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障害の理解や杉並区の特別支援教育をテーマに各年2回ずつ実施しました。 <p>参加者数 令和元年度：65人 令和2年度：78人 令和3年度：84人</p> <p>※オンライン研修による巡回指導教員の専門性向上の取組を令和2年度1校、令和3年度2校で実施しました。</p> <p>○特別支援教室専門員等対象の研修(連絡会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度、令和2年度とも各年1回実施しました。 令和3年度はコロナ禍の影響により未実施です。
評価と課題	
<p>拠点校校長や主任を対象とした特別支援教室に関する連絡・協議会を定期的を開催し、情報提供や運営に関する課題の整理、解決に向けた調整・検討を行うことができました。また、研修等を通じて、関係教職員の専門性や資質向上を図りました。今後、特別支援教室利用者の増加に伴い、教員数が増える中、引き続き巡回指導教員、特別支援教室専門員の専門性を高め、資質向上を図るための取組が必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P33 視点1</p> <p>⇒P40 視点2</p>	<p>■特別支援教室の巡回指導教員と在籍学級担任等との連携強化</p> <p>■民間との協働による個別の指導計画作成支援</p>

(4) 区立特別支援学校(済美養護学校)・特別支援学級教員の専門性の向上

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
<p>○専門研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 済美養護学校教員等、特別支援学級教員等、言語障害通級指導学級教員等 <p>○推進者養成研修(教科等におけるICT活用研修)</p>	<p>○専門研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育専門研修(特別支援学校担任対象)として講義及び実技研修を各年1回ずつ実施しました。 <p>参加者数 令和元年度：57人 令和2年度：59人 令和3年度：63人</p> <p>○推進者養成研修(教科等におけるICT活用研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修を実施しました。 <p>令和元年度：全1回 64人参加 令和2年度：全17回 延161人参加</p>

<p>○特別支援教育研修</p> <p>○特別支援学校教諭免許取得促進(済美養護学校教員及び特別支援学級教員対象)</p>	<p>令和3年度：全 24 回 延 198 人参加</p> <p>○特別支援教育研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義及び実技研修を各年 2 回ずつ実施しました。 <p>参加者数 令和元年度：55 人 令和 2 年度：58 人 令和 3 年度：60 人</p> <p>※難聴・言語障害通級指導学級教員対象の研修については、(3)の巡回指導教員等対象の専門研修と合同実施しました。</p> <p>○特別支援学校教諭免許取得促進(済美養護学校教員及び特別支援学級教員対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度現教員の免許取得者数は済美養護学校の教職員 56 人 42 人です。 ・例年 10 名程の教諭が免許取得に向け、研修を受講しました。
<p>評価と課題</p>	
<p>区立特別支援学校、区立小・中学校特別支援学級教員の専門性を高めるため、それぞれ研修等を通じて資質の向上を図っています。特に、特別な配慮を必要とする児童・生徒の指導において ICT の利用が有効である場面が多いことから、特別支援学校、特別支援学級の担任が ICT 活用研修受講を重ねてきたことは有意義と評価できます。</p> <p>今後は、東京都の専門性向上事業を令和3年度以降に区内すべての特別支援学級に還元していく取組が一層必要です。ICT の活用については、授業の質の向上だけでなく、教員の働き方改革の視点からも重要であることから、研修のオンライン化や資料作成等に一層の活用を図る必要があります。</p>	
<p>杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組</p>	
<p>⇒P32 視点1</p>	<p>■特別支援学校・学級担任の資質・能力向上</p>
<p>⇒P33 視点1</p>	<p>■ICTを効果的に活用した指導法の研究</p>

3. 推進プラン3 多様な教育環境の整備に努めます

(1) 特別支援教室の充実 (特別支援教育課)

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○中学校 令和元(2019)年度 全校設置</p> <p>・拠点校 小学校 10校、中学校3校</p> <p>○個別の指導の実施・評価</p> <p>○特別支援教室と通常の学級の連携</p> <p>○小学校から中学校への継続的な支援</p>	<p>○中学校 令和元(2019)年度 全校設置</p> <p>・令和元年度に区立小・中学校全校へ特別支援教室の設置が完了しました。 (拠点校 小学校 10校、中学校3校)</p> <p>○個別の指導の実施・評価</p> <p>・平成28年度の特別支援教室の設置以降、特別の指導を行う全児童・生徒について個別の教育課程を編成し、「個別指導計画」に基づいた特別の指導を実施しています。</p> <p>○特別支援教室と通常の学級の連携</p> <p>・令和元年度に東京都教育委員会より示された「連携型個別指導計画」を令和2年度よりすすめ、令和3年6月現在、中学校の全エリア、小学校では10エリア中8エリアで活用しています。</p> <p>○小学校から中学校への継続的な支援</p> <p>・平成30年度以降、小学校から中学校へ継続的な支援が必要な児童について「学校生活支援シート」を保護者と協働の上作成し、中学校での継続的な支援に活用しています。</p>
評価と課題	
<p>特別支援教室について、専門性の向上の取組と併せ、環境整備や情報提供、区としての仕組の充実を図りました。今後は、1人1台専用タブレット端末の一層の活用や教職員のICT環境の充実など、ハード面、ソフト面の引き続きの整備を図る必要があります。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P33 視点1	■ ICTを効果的に活用した指導法の研究
⇒P38 視点2	■ 校務支援システムを利用した作成と管理
⇒P40 視点2	■ 民間との協働による個別の指導計画作成支援

(2) 特別支援学級(知的障害)の整備 (特別支援教育課) (学校整備課)

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
○高円寺地区の小中一貫教育校への小・中特別支援学級の整備及び開設準備 令和元(2019)年度 ○高円寺地区の小中一貫教育校への小・中特別支援学級の開設 令和2(2020)年度 ○特別支援学級と特別支援学校(済美養護学校)との合同研修	○高円寺地区の小中一貫教育校への小・中特別支援学級の整備及び開設準備 ・令和元年度に実施しました。 ○高円寺地区の小中一貫教育校への小・中特別支援学級の開設 ・令和2年度に開設しました。 ○特別支援学級と特別支援学校(済美養護学校)との合同研修 令和元年度・2年度：各2回 令和3年度：2回
評価と課題	
高円寺学園は令和2年4月に小・中学部に特別支援学級を新設の上、開校しました。区内の児童・生徒数は増加の見込みの中、多様な学びの場を確保・充実していく観点等から特別支援学級の環境の充実について検討が必要です。また、済美養護学校では、外部講師を招聘した特別支援学級と特別支援学校との合同研修を年2回実施しています。これは、教員のスキルアップにつながっており、今後も特別支援学級と特別支援学校の合同・連携による特別支援教育の充実に係る取組をすすめていくことが必要です。	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P43 視点3	■特別支援学級の増設
⇒P43 視点3	■特別支援学級の充実に向けた検討

(3) 通級指導学級(難聴学級・言語学級)の充実

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
○精密機器の設置・保守 ○専門家診断の実施	○精密機器の設置・保守 ・高井戸小学校にオーディオメーターを令和元年9月に1台設置しました。 ・高井戸中学校にオーディオメーターを令和3年3月1台、令和3年10月に1台設置しました。 ○専門家診断の実施 ・専門家診断を実施しました。 令和元年度：21回 令和2年度：8回 令和3年度：11回

評価と課題	
<p>きこえ、発音、言語発達その他、発達障害の症状がみられる児童の指導に関して大学教授や民間専門家から助言を受ける専門家診断により、指導の方向を教室全体で確認する等、学級運営の質の向上を図りました。また、専門家から講話や普段の生活で気を付けること等の助言を保護者に行うことで、保護者への理解啓発や家庭における効果的な支援につながりました。今後こうした専門的な助言を活用していきます。</p> <p>精密機器の設置・保守では、難聴・言語学級各校に配置しているオーディオメーターについて更新計画に基づいた点検や保守が必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P42 視点3	■区立特別支援学校のセンター的機能を活用した支援と教育の充実
⇒P43 視点3	■学級担任による巡回指導の検討
⇒P43 視点3	■難聴・言語障害通級指導学級の環境整備

(4) 区立特別支援学校(済美養護学校)の施設維持管理

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
○エアコン交換工事 令和元(2019)年度	○エアコン交換工事 ・平成30年度、令和元年度の2カ年で全空調設備を更新しました。
評価と課題	
<p>空調設備更新により、学習環境の確保が図られています。今後は、保守点検により設備の維持管理に努めていきます。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P42 視点3	■特別支援学校的设计及び改修

(5) 区立特別支援学校(済美養護学校)及び特別支援学級におけるICT環境の整備

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
○インタラクティブボードの活用	○インタラクティブボードの活用 ・特別支援学校・特別支援学級に配置の上、学習指導に活用しています。
○タブレット端末の計画的配備	○タブレット端末の計画的配備 ・特別支援学校・特別支援学級に配置の上、学習指導に活用しています。

評価と課題	
<p>タブレット端末を他校に先駆け、特別支援学校に配置しました。今後、特別支援教育について、インタラクティブボード、タブレット端末などのICTの活用について研究、工夫等に引き続きの取組が必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P33 視点1	■ICTを効果的に活用した指導法の研究
⇒P35 視点1	■教職員の執務環境（ICT等）の整備

(6) 特別支援学校との連携による児童・生徒への支援の充実

取組（令和元～3年度目標）	成果（実績）
<p>○区立特別支援学校（済美養護学校） 特別支援教育コーディネーター及び教員等による相談・助言、障害特性に応じた教材作成及び指導方法の支援</p> <p>○都立特別支援学校 特別支援教育コーディネーターによる相談・助言、障害特性に応じた教材作成及び指導方法の支援</p>	<p>○区立特別支援学校（済美養護学校） 特別支援教育コーディネーター及び教員等による相談・助言、障害特性に応じた教材作成及び指導方法の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 区立特別支援学校（済美養護学校）と大宮中学校が連携し、児童・生徒への支援の充実について、教職員の資質向上に向けた取組を令和2年度に実施しました。 済美養護学校のセンター的機能を活用して、校内委員会や保護者出席のケース会議参加のため、区立小・中学校へ特別支援教育コーディネーターを派遣しました。 <p>○都立特別支援学校 特別支援教育コーディネーターによる相談・助言、障害特性に応じた教材作成及び指導方法の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 都立特別支援学校と連携し、都立区立特別支援学校連絡会を年4回実施しました。
評価と課題	
<p>特別支援教育にかかる区立小・中学校の要請に対して、済美養護学校のセンター的機能を活用し、児童・生徒の個別の教育的ニーズに具体的な助言等を行う取組が進み、各校における課題把握や、支援のためのケース会議にかかる調整等を行いました。今後とも、特別支援教育について、済美養護学校のセンター的機能を活かしながら、区立小・中学校の特別支援教育の充実を図るとともに、都立特別支援学校との連携・情報共有等を一層進めることが必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P42 視点3	■区立特別支援学校のセンター的機能を活用した支援と教育の充実

4. 推進プラン4 就学前からの継続した相談・支援体制の構築を図ります

(1) 幼児期からの学齢期につなぐ就学支援相談の実施

取組（令和元～3年度目標）	成果（実績）
<p>○就学前教育支援センターの開設による、就学前機関との連携及び就学支援相談の充実</p> <p>○区立特別支援学校(済美養護学校)・特別支援学級見学会の実施</p> <p>○学校公開日の周知</p>	<p>○就学前教育支援センターの開設による、就学前機関との連携及び就学支援相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育機関に向けた特別支援教育にかかる相談事業について令和2年度に試行実施しました。 (相談件数30件、令和3年度からは本格実施) <p>○区立特別支援学校(済美養護学校)・特別支援学級見学会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度はコロナウイルス感染症対策のため未実施でした。 ・令和3年度は、各見学会の実施日を区ホームページに公開し、周知の上実施しました。 <p>○学校公開日の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校のホームページで周知を実施しました。
評価と課題	
<p>就学前教育支援センターと就学前教育支援センター併設の成田西子供園で実施している協働研究では、令和3年度は「全ての幼児が主体的に生活や遊びに取り組むための環境構成と援助の在り方」を主題として研究を行い、区内就学前教育施設にその成果の発信を行いました。</p> <p>相談事業は、保育者等から好評を得ていますが、障害に関連した相談事業は、保育課や障害者施策課でも実施されていることから、これらの事業との役割の整理を行う一方、連携を充実させ、子どものあらゆる生活場面において、相談ができる体制づくりが必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P46 視点4</p> <p>⇒P47 視点4</p> <p>⇒P47 視点4</p> <p>⇒P48 視点4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■切れ目ない支援体制の充実 ■就学前判定と小学1年次4月から特別支援教室の利用の実施 ■学齢期の発達障害児の相談 ■発達障害等の幼児への教育的支援に係る指導、助言

(2) 教育支援委員会の運営

取組（令和元～3年度目標）	成果（実績）
<p>○教育支援委員会の運営</p> <p>○入級・退級システム等の改善</p> <p>○就学後の転学等相談体制の構築</p>	<p>○教育支援委員会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会を実施しました。 令和元年度： 2回 令和2年度： 2回 令和3年度： 1回 ・特別支援学校・学級入学検討部会を実施しました。 令和元年度：24回 令和2年度：29回 令和3年度：33回 ・特別支援教室入室検討部会を実施しました。 令和元年度：10回 令和2年度：11回 令和3年度：12回 ・難聴言語学級入級検討部会を実施しました。 令和元年度： 8回 令和2年度： 5回 令和3年度： 5回 <p>○入級・退級システム等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の入級・退級について校内委員会で検討・手続きをする学校が増加しました。 <p>○就学後の転学等相談体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転学の流れについては各校及び区公式ホームページを通した周知の結果、在籍校で児童・生徒の経過を追い、転学になるケースが増加しました。
評価と課題	
<p>児童・生徒の入級・入室に必要な検討部会を必要な回数開催し、適切な「教育の場」について検討を行いました。今後も入級・入室を選択する児童・生徒の入級・入室検討を適切に実施するための体制を確保する必要があります。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P47 視点4 ■就学後の転学相談体制の充実</p> <p>⇒P47 視点4 ■就学前判定と小学1年次4月から特別支援教室の利用の実施</p>	

(3) 就学前から小・中学校へつなぐ支援継続システムの確立

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○すばるⅡの作成・活用の推進</p> <p>○「学校生活支援シート」の作成と活用の推進</p> <p>○中学校での「学校生活支援シート」活用及び小学校から中学校への支援のつなぎを充実</p>	<p>○すばるⅡの作成・活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入学を迎える児童の保護者へのすばるⅡの活用方法について情報提供を実施しています。 ・「すばるⅠ」・「すばるⅡ」を区公式ホームページに掲載しました。 <p>○「学校生活支援シート」の作成と活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受理した「学校生活支援シート」は「個別指導計画」の作成や指導法の工夫等に活用しています。 <p>○中学校での「学校生活支援シート」活用及び小学校から中学校への支援のつなぎを充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校が「学校生活支援シート」を保護者から直接または保護者の了承のもと小学校から受理しました。 <p>令和元年度：76件 令和2年度：92件 令和3年度：92件</p>
評価と課題	
<p>就学前の各施設において、「すばるⅡ」の作成・活用がこの3年間でさらに進み、円滑な就学相談に寄与しています。活用の進んだ「すばるⅠ」と「すばるⅡ」ですが、その存在とともにその目的や役割等について保護者への一層の周知を図る必要があります。また、切れ目のない支援を確実に継続するため、「すばるⅡ」の活用状況を就学前施設と学校及び学校間において、より密に共有を図ることが必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P45 視点4 ■「すばるⅡ」、「学校生活支援シート」に基づく移行支援の充実</p> <p>⇒P46 視点4 ■「すばるⅡ」の定着と活用</p>	

(4) 新就学児童の発達支援

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○新就学児童発達支援事業 ペアレントトレーニングの実施</p>	<p>○新就学児童発達支援事業 ペアレントトレーニングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングを実施しました。 <p>令和元年度：2グループ各6回 1グループ5回 全17回</p> <p>令和2年度：全40回(新型コロナウイルス対策の観点から個別対応による実施)</p>

	令和3年度:全49回(新型コロナウイルス対策の観点から個別対応による実施)
評価と課題	
<p>ペアレントトレーニング(保護者が子どもの特性を理解し、適切で効果的な関わりを身に付けて子どもの適応行動を引き出すためのプログラム)の実施により子どもへの関わり方を改善したいと考えている保護者に対して、家庭の教育力強化のサポートを行いました。</p> <p>ペアレントトレーニング事業のうち、発達支援事業にかかる部分は、特別支援教室の全校設置により、その役目を終えたとして、令和3年度で終了します。しかし、個別の相談は今後も継続していくほか、福祉系の所管で類似の事業も行われていることから、今後、利用を必要とする区民に対し、適切な案内を行っていく必要があります。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P47 視点4 ■学齢期の発達障害児の相談	

(5) 就学前教育支援センターの設置と運営

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
<p>○就学前教育支援センターの整備(令和元(2019)年9月開設)</p> <p>○発達障害等の児童・生徒等への教育的支援の実施に関わる指導・助言</p>	<p>○就学前教育支援センターの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育支援センターを令和元年9月30日に開設しました。 <p>○発達障害等の児童・生徒等への教育的支援の実施に関わる指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の特別支援教育について、就学前教育施設の保育者を対象とした専門職が相談を行う教育支援相談を令和2年度から開始しています。 <p>令和2年度:30件(試行実施) 令和3年度:57件</p>
評価と課題	
<p>各就学前教育施設への発達障害に関する研修の実施及び教育支援相談の実施により、発達障害児に対する保育者の理解が進み、個別の支援策につながっています。</p> <p>今後、就学前教育施設保護者、保育者の発達障害に関する理解を一層深めるとともに、就学前教育施設において、特別支援教育コーディネーターを中心としたチームによる支援体制を整えていくための支援・啓発等の取組を進めていく必要があります。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
⇒P48 視点4 ■発達障害等の幼児への教育的支援に係る指導、助言	

5. 推進プラン5 地域や関係機関との連携した支援体制を推進します

(1) 交流及び共同学習の推進 (特別支援教育課)

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<p>○副籍制度による交流 実態に応じた直接交流の拡大(地域指定校の授業や学校行事等への参加) 学校・学級便りの交換、作品・手紙の交換等</p> <p>○特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習</p> <p>○小・中学校と区立・都立特別支援学校との交流及び共同学習</p>	<p>○副籍制度による交流 ・副籍交流を実施しました。 令和元年度：直接交流 200 件、間接交流 30 件 令和2年度：直接交流 21 件、間接交流 39 件 令和3年度：直接交流 42 件、間接交流 86 件</p> <p>○特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習 ・特別支援学級設置校では、通常の学級との交流及び共同学習について、各年の教育課程に位置付け、取組を実施しました。</p> <p>○小・中学校と区立・都立特別支援学校との交流及び共同学習 ・コロナ禍により実施していません。</p>
評価と課題	
<p>副籍の取組については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により、直接交流を行わないこととしたため、実績値は減少しました。しかし、間接交流の実績値は伸長していることから、今後は直接交流も増加していくと予想します。また、特別支援学級設置校における通常の学級との交流及び共同学習は、毎年の教育課程に位置付けて、取り組んでおり、多様性や特性を認め合い、特別支援教育への理解を進める機会となっています。</p> <p>今後は、特別支援学級と通常の学級のそれぞれに交流及び共同学習の機会の確保のため、「特別支援学級版の副籍交流」のような仕組みによる居住地におけるつながりを図るための検討が必要です。</p>	
杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組	
<p>⇒P34 視点1 ■副籍交流の充実</p> <p>⇒P34 視点1 ■交流及び共同学習の充実</p>	

(2) 地域の相談支援機関等との連携

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
○地域の相談機関の情報を発信・共有	○地域の相談機関の情報を発信・共有 ・地域子育てネットワークとの連携及び情報共有をし

<p>○地域の相談支援機関との連携</p> <p>○地域子育てネットワークとの連携及び情報共有</p>	<p>ました。</p> <p>○地域の相談支援機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校特別支援学級の保護者会が実施される時間に合わせ、児童館でその児童を預かりながら、工作や集団遊びを楽しむ集いを行っています。 <p>○地域子育てネットワークとの連携及び情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校や特別支援学級がある学校の近隣児童館では、障害のある子もいない子も一緒に楽しめる「ノーマライゼーション事業」を定期的に行っています。
<p>評価と課題</p>	
<p>特別支援学校・学級に近い児童館では、「ノーマライゼーション事業」を定期的実施し、活動には地域のボランティアや「母親クラブ」の支援を得ながら交流事業を行っています。</p> <p>学童クラブでは、個別な支援を必要とする特別支援児童の在籍数が増えています。クラブ全体の受入れ人数が100人を超える大規模集団の中で、一人ひとりの子どもにとって「安全・安心な居場所」として運営を継続していくことが必要です。</p>	
<p>杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組</p>	
<p>⇒P36 視点1 ■特別支援教育推進に係る諸課題の解決に向けた検討や学校間を含む関係機関との調整</p> <p>⇒P38 視点2 ■通常学級介助員ボランティア等の活用</p>	

(3) 学齢期の発達障害児に対する支援

取組(令和元～3年度目標)	成果(実績)
<p>○学齢期発達支援事業の利用支援</p> <p>○学齢期発達支援事業者と学校との連携推進</p> <p>○放課後等デイサービスの利用支援</p>	<p>○学齢期発達支援事業利用支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年の事業利用決定者数は下記のとおりです。 令和元年度：152人 令和2年度：160人 令和3年度：161人 <p>○学齢期発達支援事業者と学校との連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援状況や発達の課題について学校と情報共有を図り、児童・生徒の社会性やコミュニケーションの発達支援を実施しています。 <p>○放課後等デイサービスの利用支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の状況やニーズに合わせた放課後等デイサービスの利用について相談や利用計画等の作成を実施しています。

<p>学齢期発達支援事業では、発達障害の課題を抱える低学年の児童に対し、幼児期から切れ目のない支援を行うため、区独自の事業を行い、社会性やコミュニケーションの発達を支える取組を行っています。本人が生き生きと学び、生活を楽しめるよう、支援を行う事業所と学校との連携をさらに強化することが必要です。</p> <p>放課後等デイサービスでは、障害児の放課後の過ごし方などの相談に対し、本人の状況に合わせて安心して過ごせる場を家族と共に考え、支援を行う事業所につなげています。利用者のニーズに応じた支援が行えるよう今後も丁寧な相談を継続する必要があります。</p>
<p>杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組</p>
<p>⇒P47 視点4 ■学齢期の発達障害児の相談</p>

(4) 保護者や地域に対する理解啓発

取組 (令和元～3年度目標)	成果 (実績)
<ul style="list-style-type: none"> ○各リーフレットの作成・配布(「障害のある子どもへの理解」、「杉並の特別支援教育」、「手をつなごう」、「特別支援教室」等) ○福祉教育読本「かけはし」の活用 ○PTA等の主催する障害理解のための研修や講座等の支援 ○障害者団体や地域団体、民生委員・児童委員等に対する理解啓発の実施及びネットワーク構築 ○特別支援教育等情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○各リーフレットの作成・配布 <ul style="list-style-type: none"> ・「杉並の特別支援教育」と福祉副読本「かけはし」の内容を毎年度更新しました。 ○福祉教育読本「かけはし」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年小学4年生と中学1年生に配布 ○PTA等の主催する障害理解のための研修や講座等の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・講座「これからの学校とインクルーシブ教育について」(中P協・令和元年10月)ほかを実施 ○障害者団体等のネットワーク構築の実施及び特別支援教育等情報交換会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者週間(12月3日～9日)の普及啓発のちらしを小・中学校児童生徒全世帯へ配布しました。 ・障害者団体が中心になって作成した「だれにでもやさしいまち杉並をめざして(簡単版)」リーフレットを児童に配布、差別解消支援地域会議による障害理解の普及啓発等を実施しました。 ○特別支援教育等情報交換会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元、2、3年度とも地域の障害者団体の会合へ出席し、区の事業説明や意見交換を実施しました。
評価と課題	
<p>差別解消支援地域会議では、障害当事者とともに、地域の様々なイベントで障害の有無にかかわらず交流を行い、ともに同じ時間を過ごすことで地域の中で子どもの頃から障害への理</p>	

解を学べる環境づくりに取り組んでいます。

特別支援教室のリーフレットは、紙媒体のほか、区公式ホームページからのダウンロードによって各校に希望者への配布を依頼しています。すぐにデータを手に入れられる利便性は高いものの、存在の周知についてはさらに工夫が必要です。また、児童・生徒への教材等を障害者団体や関係機関などで作成している他区の事例も参考としながら、取組をより多くの学校や地域とともに広げていけるよう、今後も検討を継続していく必要があります。

杉並区特別支援教育推進計画 令和4～6年度(2022～2024年度)において関連する取組

⇒P39 視点2 ■区公式ホームページ等を活用した情報発信

※令和2・3年度については新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な催し等の実施件数・回数が激減しています。

第4章 計画の内容 4つの視点と主な事業

1 計画の体系と視点

視点1

自分に合った学び方

学び方の違いを相互に認め合える、連続性のある学びの内容・方法が充実させ「明日も行きたい学校」をつくっていきます。

【学校における取組】

- (1) 特別支援学校、特別支援学級の教育課程の充実
- (2) 特別支援教室の教育課程の充実
- (3) 子どもたちの自己肯定感を高める教育活動の充実
- (4) ICTを効果的に活用した指導法の充実
- (5) 副籍交流、交流及び共同学習の充実

【教育委員会の支援】

- (1) 学校の支援体制の充実
- (2) 学校の特別支援教育の推進に向けた取組の支援

視点2

自らの可能性を発見、伸長できる教育環境

すべての学校で必要な合理的配慮を提供し、子ども一人ひとりが自分なりの自己選択、自己決定ができる機会を確保します。また、特別支援教育に関わるすべての人と機関の当事者意識の醸成を図ります。

【学校における取組】

- (1) 校内委員会の進め方の工夫と役割の強化
- (2) 「個別指導計画」の内容の充実と実行・評価
- (3) 地域や関係機関と連携した支援体制の充実

【教育委員会の支援】

- (1) 合理的配慮・基礎的環境整備の計画的な推進
- (2) 保護者や地域に対する理解啓発
- (3) 教育支援チーム・専門家チームの効果的な活用
- (4) 地域や関係機関と連携した支援体制の推進

視点3

自分に合った学びの場

特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに応えることができるよう法令・制度に基づき重層的で多様な学びの場を整えます。

【学校における取組】

- (1) 特別支援教室の充実
- (2) 特別支援学級の特別支援学校との連携による教育内容の充実

【教育委員会の支援】

- (1) 特別支援学校の教育環境整備
- (2) 特別支援学級（知的障害）の整備
- (3) 難聴・言語障害通級指導学級の充実
- (4) 多様な学びの場の充実に向けた検討

視点4

切れ目のない支援

自分らしく生き、多様な他者と共生するために、子ども、保護者及び学校を継続的、包括的に支援できる体制の整備、充実を図ります。

【学校における取組】

- (1) 校種間での教育支援計画の効果的な引継ぎ

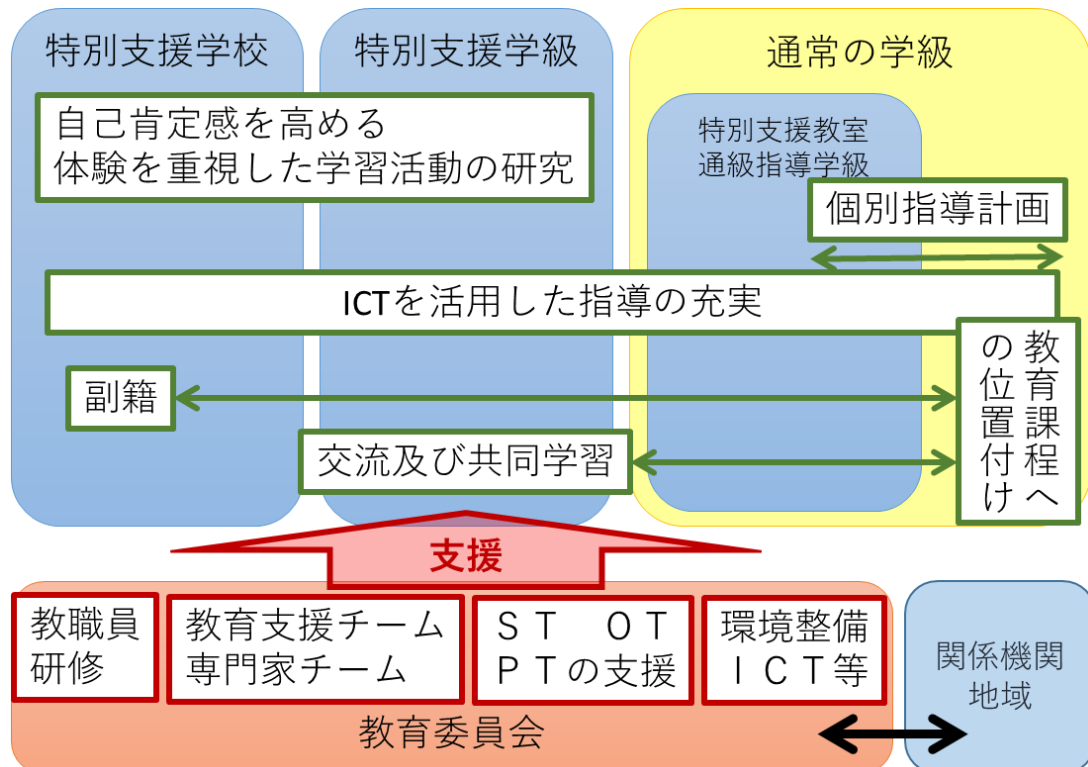
【教育委員会の支援】

- (1) 学校と地域が協働して特別支援教育を支える仕組の検討
- (2) 幼児期から学齢期につなぐ就学支援相談の実施
- (3) 就学前教育支援センターの機能強化

2 視点の内容

視点1 自分に合った学び方

学び方の違いを相互に認め合える、連続性のある学びの内容・方法が充実した「明日も行きたい学校」をつくります。



1. 学校における取組

(1) 特別支援学校、特別支援学級の教育課程の充実

知的障害のある児童・生徒が学ぶ特別支援学校、特別支援学級では、自発的な活動を大切にします。そのため、主体的な学習活動を促しながら、成功経験を豊富に得ることや、充実感や達成感が得られる指導を通じて、生活に根差した知識・技能や学びに向かう力などが身に付くようにする教育的対応を基本とした教育課程を編成します。

また、「個別指導計画」を作成し、一人ひとりの子どもの障害の程度や特性に応じた目標、指導内容、指導の工夫をきめ細かく設定し教育活動を実施しています。その上で、実際の生活場面に応用できる力を育むことができるよう、体験的な学習を加えた教育課程の充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■知的障害のある児童・生徒の教育課程の充実

区立の知的障害特別支援学校である済美養護学校では、発達期における知的機能の発達及び適応行動の困難性を踏まえ、児童・生徒が自立し社会参加するために、育みたい資質・能力の3つの柱が偏りなく実現できることを重視し、教育課程を編成します。また、特別支援学級では、小・中学校の教育課程を基本とし、特別支援学校の教育課程を参考にしながら在籍する児童・生徒の実態に応じて教育課程を編成します。

編成に当たっては、知的障害教育の特徴である各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習等）を教育課程に位置付け、学習グループ編製の工夫やICT機器を活用することで、より個に応じた指導の工夫と体験的な学習に取り組みます。

■特別支援学校・学級担任の資質・能力向上

特別支援学級担任の教員研修では、児童・生徒の理解、指導の工夫・改善等を主なねらいとし、講義や実践発表、授業研究などを行います。また、特別支援学校のセンター的機能を活用し、特別支援学校から特別支援学級を設置する各学校への計画的・継続的な授業実践や教室環境の整備等への助言・支援を行うことにより、教員の資質・能力向上を図ります。

さらに、職層に応じた研修（初任者等研修、中堅教諭等資質向上研修、管理職研修）や、特別支援教育専門研修において、特別支援教育に関する先進的、実際の事例を取り扱います。また、特別支援教育をテーマとした校内研修を実施する学校に講師紹介や講師派遣などの支援を行います。

■特別支援学校教諭免許取得促進

特別支援学校・学級を担当する教員には、特別支援学校教諭免許状を積極的に取得するよう促します。特別支援学校・学級を担当する教員には、東京都教育委員会で開講する特別支援学校教諭免許の免許法認定講習への受講を推奨するなど、特別支援学校教諭免許を積極的に取得するよう促します。

（2）特別支援教室の教育課程の充実

特別支援教室では、児童・生徒一人ひとりの在籍学級での困難さや、それを克服するために身に付ける力、目標とする姿に応じた教育課程を編成し、児童・生徒が自己肯定感を育みつつ自分らしく生きていくことができるよう、教育課程の充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■発達障害のある児童・生徒の教育課程の充実

特別支援教室を利用する児童・生徒数の増加に伴う教室環境や教材の整備、巡回指導教員と在籍学級担任のさらなる連携、ICTなどを活用した指導・支援を行います。

■特別支援教室の巡回指導教員と在籍学級担任等との連携強化

令和3年度の校務支援システム改修によって、特別支援教室の巡回指導教員と在籍学級担任とが担当する児童・生徒情報を円滑に共有、更新する仕組みが整いました。校務支援システムを活用することにより、巡回指導教員と在籍学級担任との連携を強化し、自立活動の指導について、より効果的な計画作成と実践を行います。

(3) 子どもたちの自己肯定感を高める教育活動の充実

特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童・生徒について、一人ひとりが、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手として育つための取組を行います。具体的には、花壇の手入れのような地域貢献につながる取組や、リサイクルやバザーのような環境を意識した取組など、生活の中で成功経験を豊富にし、自己肯定感を育む活動を通じて、学びに向かう力、主体的に取り組む意欲を育みます。

このため、区立特別支援学校・学級において、知的障害教育の特徴であり専門性を支える「各教科等を合わせた指導」を教育課程の中心に据えた体験的な学習指導の実践研究を行います。

《計画期間における具体的な取組》

■特別支援学校・学級における体験的な学習指導の工夫と実施

特別支援学校・特別支援学級設置校から研究校を募り、社会参加を見据えた体験的な学習指導の工夫に関する研究を行います。

(4) ICTを効果的に活用した指導法の充実

ICTの活用は、認知処理の偏り等を補ったり、注意や集中を高めたりすることができるため、特別な支援を必要とする子どもの学習上の困難さを改善する効果があるとされ、授業で活用できる様々な実践が紹介されています。ICT環境の整備と共に、文部科学省や東京都教育委員会が作成する活用事例集を参考にしながら、効果的な指導法を行います。

《計画期間における具体的な取組》

■ICTを効果的に活用した指導法の研究

区立学校におけるタブレットパソコン等のICT環境が整ってきたことを踏まえ、ICT機器の特別支援教育での活用について、区内の取組の好事例について共有するとともに、ICTを効果的に活用した指導法の開発・実践を行います。

(5) 副籍交流、交流及び共同学習の充実

現在、特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒が副籍を持ち、学んでいます。障害のある子どもと障害のない子どもが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、すべての子どもにとって、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となることから、更なる充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■ 副籍交流の充実

区立特別支援学校は、副籍交流について本人及び保護者の意向を確認し、希望に沿った交流が実施できるよう副籍校と調整します。また、副籍校では、副籍交流の機会が確保できるよう、行事予定などを適切な時期に区立特別支援学校へ情報提供するようにします。さらに、双方の学校で交流を教育課程に位置付け、計画的な取組となるようにします。こうした取組により、特別支援学校と副籍校間の十分な情報交換、連携を図ります。

また、交流の方法について、児童・生徒が直接にふれあう機会（直接的な交流）を大切にするという考えを基本としつつ、ICTを活用するなど柔軟な形態での実施を含めた多様化を進めます。

■ 交流及び共同学習の充実

交流及び共同学習を組織的・計画的に実施するため、特別支援教育コーディネーター連絡会等において検討・検証し、必要に応じて改善を行います。また、各特別支援学級と校内の通常の学級との取組では、双方の教育課程に位置付けることにより、意図的・計画的な活動となるようにします。

特別支援学級間の取組では、各種連合行事への参加と交流をはじめ、ICTを活用した柔軟な形態での交流活動を行います。

さらに、特別支援学校の副籍交流と同様の効果をねらい、特別支援学級に在籍する児童・生徒と居住する地域の学校との交流及び共同学習の実施に向けて検討を行います。

2. 教育委員会の支援

(1) 学校の支援体制の充実

児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた計画的かつ適切な指導及び必要な支援を行う学校への支援体制について、学識経験者や指導主事等による授業観察と指導助言の活用、特別支援学校・特別支援学級の教員や特別支援教室巡回指導教員の全員を対象とした研修の実施、教育支援チームによる教育課程の確認等による充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■教育支援チームの活動の充実【特別支援教育課】

学校だけでは解決が困難な課題の深刻化防止、早期解決に向け、教育支援チームによる支援を行います。また、より迅速かつ適切なサポートが行えるよう、教育支援チーム内の教員と心理士の役割分担、巡回方法、授業観察の対象等、教育支援チームの活動について必要な検討を行うことにより、その活動の一層の充実に取り組みます。

■教職員の執務環境（ICT等）の整備【庶務課・特別支援教育課】

特別支援学校、特別支援学級、特別支援教室、通級指導学級のそれぞれにおいて、教職員の執務環境の整備を進めます。特別支援教室については、今後ICTを活用した指導の充実を図るため、授業用パソコンや、ネットワーク環境の整備が重要であることから、セキュリティ等に十分に配慮しながらICT環境の充実に取り組みます。

■言語聴覚士(ST)・作業療法士(OT)・理学療法士(PT)等の専門家による巡回支援【特別支援教育課】

教員や職員の専門性を高めるために、ST・OT・PTによる指導技術や支援方法に関する助言・支援等を実施します。

(2) 学校の特別支援教育の推進に向けた取組の支援

児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズによりの確に対応するためには、教職員の特別支援教育にかかる知識や資質を引き続き、高めていくことが必要です。このため学校において、先駆的な教材の活用や急速な進歩が進むICT等について十分な検討、研究が行えるよう必要な支援を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■実践研究校の指定、研究の進行管理等

【済美教育センター・特別支援教育課】

特別支援学校または特別支援学級から募った研究校による、体験的な学習指導の工夫に関する研究を行います。実施に当たっては、十分な成果をあげることができるよう、教育委員会は研究の進行を支え、共に探究します。

■特別支援教室の巡回指導教員等の資質・能力向上

【特別支援教育課】

現在実施している専門研修の内容を検証・精査し、障害等の特性に対する理解に加え、学習指導要領に基づく「学校生活支援シート」及び「個別指導計画」の作成、授業力向上のための取組、進路指導の内容を特別支援教室専門研修に位置付けます。また、各校

に配置されている特別支援教室専門員の資質・能力の向上を図るための研修を区独自で実施します。

■特別支援教育推進に係る諸課題の解決に向けた検討や学校間を含む関係機関との調整【障害者施策課・特別支援教育課】

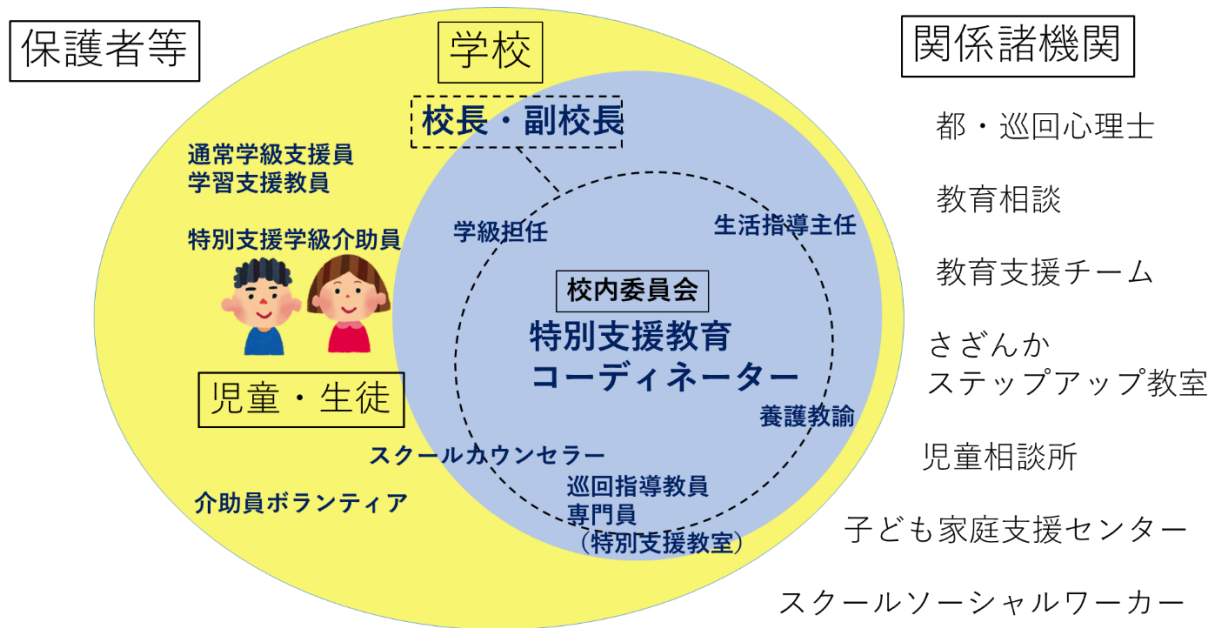
医療、保健、福祉等の関係機関と連携した相談支援体制づくりを進めます。また、区の障害者部門や児童相談所などの公的機関、障害者団体等と連携し、就学から卒業後の進路や生活支援など相談支援に関する情報を共有・活用するため、関係機関との連絡調整を行います。

■副籍・交流及び共同学習の推進【特別支援教育課】

学校が副籍・交流及び共同学習を一層充実させるためには、より柔軟な交流の取組を進めることが必要です。このため、ICTやボランティアなどの地域資源を活用した、副籍・交流及び共同学習に児童・生徒がより参加しやすい仕組みづくりの検討を行います。

視点2 自らの可能性を発見、伸長できる教育環境

すべての学校に必要な合理的配慮を提供し、子ども一人ひとりがその時点の教育的ニーズに応じた自己選択、自己決定ができる機会を確保します。また、特別支援教育に関わるすべての人と関係諸機関の当事者意識の醸成を図ります。



1. 学校における取組

(1) 校内委員会の進め方の工夫と役割の強化

子ども本人の「こうしてほしい」という意思を表明することができる「開かれた校内委員会」の実現を図ります。また、校内委員会で検討・決定した指導の工夫や支援の内容を確実に校内へ周知・徹底するため、校内委員会の役割を改めて確認し、会議とその後の支援につなげるまでの進め方の工夫を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■本人及び保護者が意見表明する場の設定

子どもが自分にあった学びの場や学び方の自己選択、自己決定をどのように実現するのかという観点から、本人及び保護者への情報提供のあり方や、校内委員会における本人の意見表明のあり方に関して検討を行い、自らの学びの選択に関する意見表明の場を設定します。

■特別支援教育コーディネーターの資質向上

各学校において、校内委員会がその取組を継続的に充実していくためには、特別支援教育コーディネーターが十分にその機能を果たすことが必要です。このため、特別支援コーディネーターを対象とした研修や特別支援教育コーディネーター間の情報交換を目的とした連絡会、校内委員会の運営方法等についての情報提供など、特別支援教育コーディネーターの資質向上を図ります。

(2)「個別指導計画」の内容の充実と実行・評価

現在学校においては、一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援を効果的に実施するための「学校生活支援シート（個別の教育支援計画）」と、「学校生活支援シート」に基づいた「個別指導計画」を作成し、指導に生かしています。今後は、「個別指導計画」の内容を、困難さに焦点を当て、その困難さを改善したり軽減したりするため、より具体的な目標設定をするなど充実させるとともに、特別支援教室においては、在籍学級担任と巡回指導教員が協働した「個別指導計画」の作成と内容の充実を進めます。

《計画期間における具体的な取組》

■校務支援システムを利用した作成と管理

令和3年度の校務支援システム改修により、特別支援教室の巡回指導教員と在籍学級担任とが担当する児童・生徒情報を円滑に共有、更新する仕組みが整いました。今後は、巡回指導教員と在籍学級担任との連携強化、特別な支援を必要とする児童・生徒の円滑かつ安全な情報管理、特別支援関係書類の作成事務の簡素化と作成における教員の負担軽減を図るための校務支援システムの効果的な運用に向けて必要な研修を行います。

(3) 地域や関係機関と連携した支援体制の充実

特別な支援が必要な児童・生徒の学校生活における日常生活の介助や安全管理等の支援を行うため、地域人材の活用や関係機関との連携による校内支援の充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■通常学級介助員ボランティア等の活用

学校支援本部や区内の大学などとも連携し、通常学級介助員ボランティアへの積極的な地域人材の活用に努めます。

2. 教育委員会の支援

(1) 合理的配慮・基礎的環境整備の計画的な推進

特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応していくために必要となる学びの環境の整備について、ICTや人的資源などを活用することにより、一層の充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■ ICT環境の整備 【庶務課・特別支援教育課】

国の「学校におけるICT環境整備の在り方に関する有識者会議」の動向やモデル事業の実施状況を踏まえ、特別支援学校、特別支援学級等へのタブレット端末やネットワーク環境等のICT環境の整備について検討し、ICTの活用による一人ひとりに応じた指導の充実を図る学校を支援します。

■ 学習支援教員、通常学級支援員等の活用 【特別支援教育課】

通常の学級における特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、学習支援教員や通常学級支援員等を引き続き配置します。また、「個別指導計画」に基づき、適切な指導や必要な支援を行うため、学習支援教員、通常学級支援員を対象とする障害特性に関する理解や支援の方法、学級担任との連携に関する研修を実施します。

■ 特別支援学校、特別支援学級介助員配置のあり方検討

【特別支援教育課】

特別支援学校、特別支援学級への介助員の配置について、区全体の在籍者数の増加や、現場における人的支援のニーズの変化を踏まえつつ、学級数や障害種別に応じた配置など、配置基準のあり方について検討を行います。また、特別支援学級介助員に対し、障害特性に関する理解や支援の方法、学級担任との連携に関する研修を実施します。

(2) 保護者や地域に対する理解啓発

特別支援教育を推進していくためには、支援の対象となる児童・生徒や保護者に加え、周囲の人々の理解と協力が不可欠であることから、継続的に児童・生徒、保護者及び地域住民に対する具体的な理解啓発を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■ 区公式ホームページ等を活用した情報発信 【特別支援教育課】

特別支援教育の正しい理解と啓発を図るため、区の特別支援教育に関する施策の情報はじめ、「就学の流れ」「転学・進学の相談」などの情報について、区公式ホームページへの掲載のほか、区公式ツイッターなどのSNSの活用を行います。

(3) 教育支援チーム・専門家チームの効果的な活用

学校だけでは解決が難しい、特別支援教育にかかる課題について、心理や教育等の専門職による支援により、その深刻化、長期化の防止を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■教育支援チームによる学校支援の充実 【特別支援教育課】

心理士や教員経験者等で構成する教育支援チームが小・中学校を定期または要請に基づき随時訪問し、校内支援体制の構築及びその充実や、校内委員会への参加、個別の支援や教室環境整備等についての助言を行います。

■専門家チームによる学校支援の充実 【特別支援教育課】

学校だけでは解決が難しい課題について、医師・心理士・指導主事・特別支援学校の特別支援教育コーディネーターなどにより構成されるチームが、その専門的な知見からの助言など、解決に向けた支援を行います。

(4) 地域や関係機関と連携した支援体制の推進

特別な支援を必要とする児童・生徒の、学校生活における日常生活の介助や安全管理等を支援する地域人材の確保を図るとともに、支援の充実に向けた取組を進めます。また、民間との協働により、学校の教育環境づくりを支援します。

《計画期間における具体的な取組》

■通常学級介助員ボランティアの確保・育成

【学校支援課・特別支援教育課】

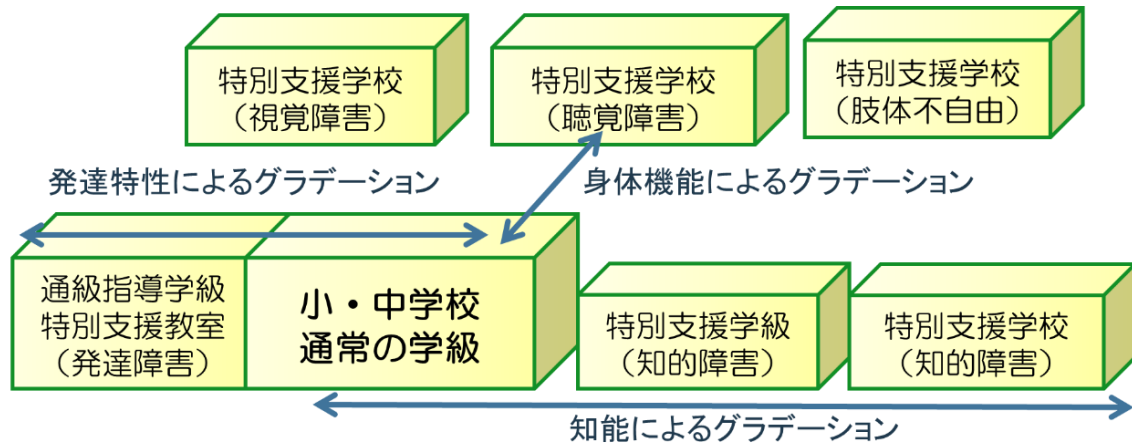
区民向け講習会の実施を通じて、特別支援教育施策の啓発を行うとともに、ボランティア人材の確保と育成を行います。また、学校支援本部や区内の大学などとも連携し、より多くの通常学級介助員ボランティアの確保に取り組みます。

■民間との協働による個別の指導計画作成支援 【特別支援教育課】

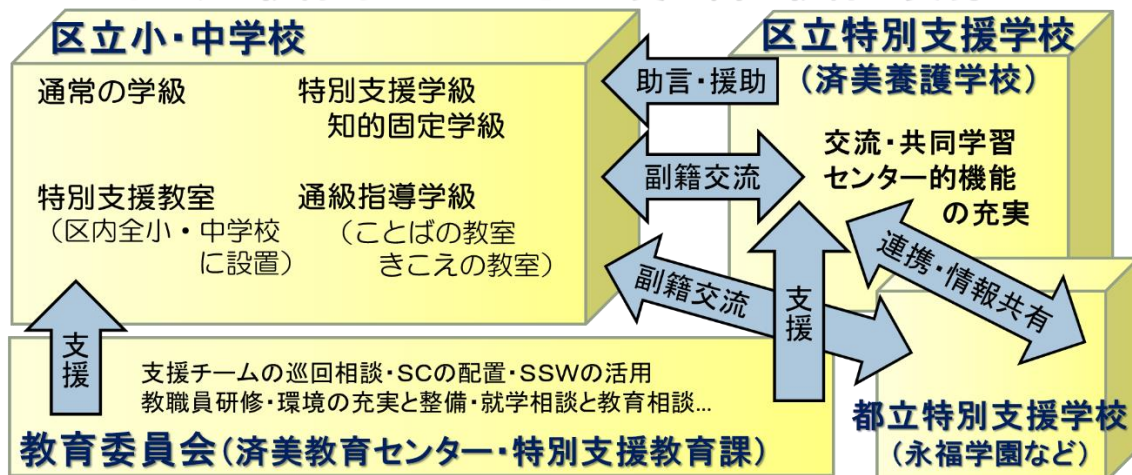
民間企業との協働による「個別の学び支援システム」を導入・活用することで、特別支援教室を利用する児童・生徒の学習面や生活面の困難さを適切に把握することで、一層の「個別指導計画」の内容の充実を図ります。また、本システムの活用により、教員の「個別指導計画」作成の負担軽減も図ります。

視点3 自分に合った学びの場

特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに応えることができるよう、法令・制度に基づき重層的で多様な学びの場を整えます。



一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い教育の実現



1. 学校における取組

(1) 特別支援教室の充実

全小・中学校設置の特別支援教室では、知的発達に遅れのない発達障害の児童・生徒が、巡回指導の教員により1週当たり1～4時間程度学んでいます。児童・生徒が個別の課題による学習上又は生活上の困難を改善・克服することで、可能な限り在籍学級において学校生活を送れるよう指導しています。児童・生徒の自立と社会参加につながる特別支援教室の指導内容や成果については、在籍学級担任等をはじめ、学校全体で共有し、指導・支援体制の充実を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■巡回指導や巡回の仕方についての検証と見直し

特別支援教室の利用を選択する児童・生徒数が増えていく中においても、質の高い学びを確保するため、現在の巡回指導教員の各校の巡回方法や指導方法について、東京都特別支援教室運営ガイドライン等を参考としながら定期的に開催する主任会の中で検証を行い、必要な見直しを行います。

(2) 特別支援学級の特別支援学校との連携による教育内容の充実

小・中学校特別支援学級に在籍する児童・生徒は、近年増加傾向にあります。また、児童・生徒の障害の程度や状態は様々であることから、より一人ひとりの実態に応じた指導の充実が必要です。このため区立の特別支援学校を有する利点を生かし、特別支援学校と特別支援学級が緊密に連携し、特別支援学校の知見を活用した指導内容や方法の工夫による教育内容の充実を図ります。

■区立特別支援学校のセンター的機能を活用した支援と教育の充実

特別支援学級の知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害のある児童・生徒について、東京都特別支援教育推進計画では、区立特別支援学校が特別支援学級のエリアネットワーク拠点校に指定されています。これを活用し、同校の特別支援教育コーディネーターの特別支援学級設置校への派遣による相談・助言による障害特性に応じた教材作成や指導方法の工夫を行います。

2. 教育委員会の支援

(1) 特別支援学校の教育環境整備

区立特別支援学校である済美養護学校について、今後も増加が見込まれる児童・生徒数への対応と教育環境の一層の充実を図るため、近隣の済美教育センターの改修と増築を行い、令和7年度に中学部の移転をするための取組を進めます。

《計画期間における具体的な取組》

■特別支援学校の設計及び改修【特別支援教育課・学校整備課・営繕課】

区立済美養護学校の設計及び改修は、現在の済美教育センター1階部分の改修と一部増築を以下の工程で実施します。

年 度	工 程 等
令和4年度	基本設計
令和5年度～6年度	実施設計・建設工事の実施
令和7年度	新校舎での授業開始

※ 区立済美養護学校の現校舎は、小学部校舎とします。

(2) 特別支援学級（知的障害）の整備

特別支援学級で学ぶ児童・生徒数が増えていく中においても、良好な学習環境を保つことに加え、通学時間の負担軽減等を図るため、令和6年度、小学校1校に新たな特別支援学級を設置する取組を進めます。

また、特別支援学級で学ぶ児童・生徒の学習環境の充実について、引き続き検討します。

《計画期間における具体的な取組》

■特別支援学級の増設 【学校整備課・特別支援教育課】

特別支援学級で学ぶ児童・生徒がより身近な地域で学ぶことができるようにするなど、特別支援学級の環境整備について検討を進めます。

年 度	工 程 等
令和4年度	新たな設置校1校を決定。設計を実施
令和5年度	改修工事を実施
令和6年度	新設の特別支援学級での授業開始

■特別支援学級の充実に向けた検討 【特別支援教育課】

特別支援学級の新設1校開級後も引続き、児童・生徒の居住地の実態等の把握を行い、特別支援学級の配置について検討を行います。

(3) 難聴・言語障害通級指導学級の充実

通級指導学級（難聴学級・言語障害学級）を利用する児童・生徒のため、教育環境の整備を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■学級担任による巡回指導の検討 【特別支援教育課】

難聴・言語障害通級指導学級について、通学時間の負担軽減等のため、指導を必要とし、在籍する学校での指導が可能な児童・生徒への難聴・言語通級指導学級担任による巡回指導を行う仕組みの検討を行います。

■難聴・言語障害通級指導学級の環境整備 【庶務課・特別支援教育課】

難聴・言語障害通級指導学級において、正確な聴力の検査を行うことができるよう、オージオメーターや騒音計の計画的な保守・更新を進めます。

(4) 多様な学びの場の充実に向けた検討

児童・生徒の発達段階や特性は様々です。このため、子どもの一人ひとりの特性に応じることができる多様な学びの場の充実にする必要があります。

区では、小・中学校への特別支援教室の設置などの学びの場の充実に取り組んでいますが、子ども一人ひとりの特性を踏まえ、今後、一層の多様な学びの場の充実に向けた検討を進めます。

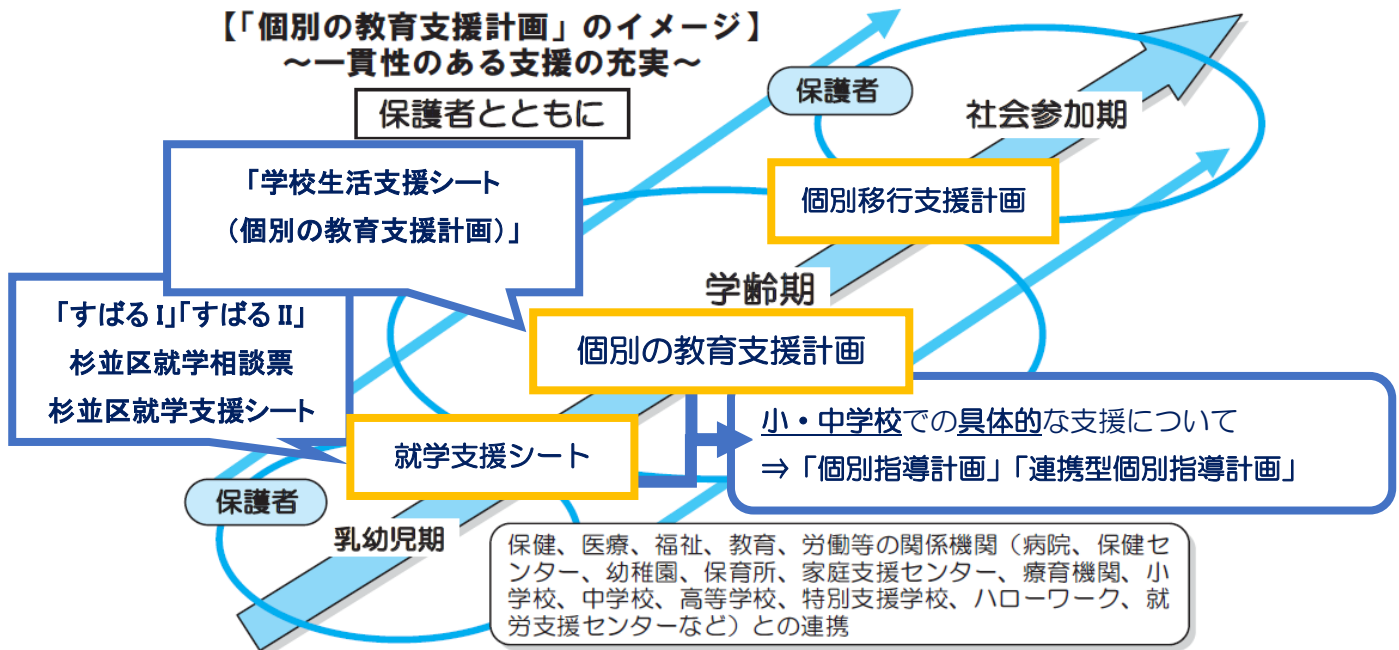
《計画期間における具体的な取組》

■多様な学びの場の充実に向けた調査研究の実施【特別支援教育課】

特別な教育的ニーズを持つ児童・生徒の中で、区内の既存の学びの場になじめない児童・生徒が具体的に必要としている学びの場の態様などの調査を進めます。また、他自治体の自閉症・情緒固定特別支援学級、肢体不自由特別支援学級、弱視特別支援学級等多様な学びの場の事例を参考に、教育課程、指導内容等の調査研究を行います。

視点4 切れ目のない支援

自分らしく生き、多様な他者と共生するために、子ども、保護者及び学校を継続的、包括的に支援できる体制の整備、充実を図ります。



1. 学校における取組

(1) 校種間での教育支援計画の効果的な引継ぎ

特別な支援が必要な子ども一人ひとりへの支援の充実を図るためには、子どもたちの学びの場においてどのような支援が行われたかという情報を次の学びの場に引き継がれていくことが重要です。

小学校で作成された「個別指導計画」や「学校生活支援シート」が、中学校、さらには高等学校へも引き継がれて行くことが重要であることから、校種間における着実な教育支援計画の引継ぎのための取組を進めます。

《計画期間における具体的な取組》

■ 「すばるⅡ」、「学校生活支援シート」に基づく移行支援の充実

特別な支援が必要な子どもにとって、関わり方の工夫・配慮を行うことが、安心できる学校生活につながります。特に、就学・進学時の移行期では、就学・進学先の学校等が必要な

支援を継続することで、その後の学校生活へ安心して向かうことができます。そのため、関係する学校間での子どもの切れ目のない支援のため、「すばるⅡ」や「学校生活支援シート」による情報連携を進めます。

■特別支援学校、特別支援学級見学会の実施

子どもと保護者が実際の学びの場を選択するための参考とすることを目的として、特別支援学校及び各校の特別支援学級において、学校・学級の見学会を開催します。見学会の開催や内容は、区公式ホームページ及び各校のホームページに掲載し、周知を行います。

2. 教育委員会の支援

(1) 学校と地域が協働して特別支援教育を支える仕組の検討

特別な支援を必要とする子どもたちが、その能力と可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加する力を身に付けていくためには、学校だけでなく、社会全体の様々な場での学びが大切です。

すべての子どもたちが地域社会の一員として豊かに成長するため、多様な交流の機会の設定や、保護者や地域、関連機関と連携した支援体制の整備を進めます。

《計画期間における具体的な取組》

■切れ目のない支援体制の充実 【特別支援教育課】

乳幼児期から小学校入学までは「すばるⅡ」を利用することによって円滑な移行を図っていますが、就学前支援、就学相談、学校生活の各場面において担当者が異なるため、就学前の支援や保護者の願いなどが入学後の「個別指導計画」や「学校生活支援シート」の作成・活用に十分にはつながっていない現状があります。このため「切れ目のない支援」の一層の充実を図るため、就学前機関における就学相談や「すばるⅡ」の作成、それらに基づく小学校入学後の「個別指導計画」や「学校生活支援シート」の作成・活用までを、子どもと保護者に寄り添いながら一貫してサポートする仕組みを検討します。

■「すばるⅡ」の定着と活用

「就学支援シート(すばるⅡ)」の作成・活用により、児童が、就学時から個に応じた適切な支援を受けることができます。そのため「すばるⅡ」の必要性について引き続き保護者や就学前教育施設、学校に啓発します。また、「すばるⅡ」の内容を活用して「学校生活支援シート」を作成し、高等学校までの情報の引継ぎを行います。

■大学等との連携 【特別支援教育課】

特別支援教育の推進に向け、大学等との連携により、大学の持つ専門性や多様な教育資源を教育現場に活用できるよう検討を行います。具体的には、専門性の向上を図る研修講師の依頼や、必要に応じ学生ボランティアの派遣を依頼するなど、区における特別支援教育の推進に資する関係の構築を行います。

■就学後の転学相談体制の充実 【特別支援教育課】

就学時に決定した「学びの場」は、固定したものではありません。このため、それぞれの子どもの発達程度、適応の状況等を考え合わせながら、より柔軟な対応を行うことを原則として、転学相談体制を構築します。

(2) 幼児期から学齢期につなぐ就学支援相談の実施

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであることから、質の高い幼児教育が提供されることが重要です。早期に障害や発達の特性に気づき、その発達に応じた必要な支援を行うことは、障害や発達の特性のある幼児にとって、その後の自立や社会参加に大きな効果があるとともに、子どもを支える家族への支援という観点からも大きな意義があります。

幼児期の教育相談では、医療、福祉、保健等と連携し、取組を進めます。

《計画期間における具体的な取組》

■就学前判定と小学1年次4月から特別支援教室の利用の実施 【特別支援教育課】

発達障害の判定がある新入学児童のうち、入学当初から特別支援教室の利用を必要とする児童に切れ目のない支援を行うため、小学校入学後の4月から特別支援教室の利用を実施します。

■学齢期の発達障害児の相談 【障害者施策課】

各学校において、在籍する発達障害児に対する相談を行い、発達特性に応じた支援を行う機関に繋がります。特に就学後、小学校低学年において、円滑に学校生活を送れるよう、学齢期発達支援事業の利用支援や事業者との連携を進めます。

(3) 就学前教育支援センターの機能強化

子ども一人ひとりの特性に合わせた適切な支援を早期に受けることで、生活上の困難が軽減され、生活に適応しやすくなります。早期支援につなげるためには、保育園・幼稚園などの就学前教育施設で、保育者が気づくための手助けや働きかけが重要です。保育者が相談や支援を受けたいと思ったときに、速やかに適切な機関につながることも重要です。

就学前教育支援センターでは、発達障害児等への教育的支援についての機能強化を図ります。

《計画期間における具体的な取組》

■ 発達障害等の幼児への教育的支援に係る指導、助言

【就学前教育支援センター】

区内就学前教育施設における特別な支援を必要とする幼児の学びや発達について一層の充実を図るため、保育者を対象とした教育支援相談の実施により、相談員が専門的な見地から助言を行います。また、各就学前教育施設における教育支援相談などにより行われた特別な配慮や支援の実践状況について、定期的にまとめ、区内就学前教育施設に発信するとともに、就学前教育の研修等に活用します。

第5章 計画の推進に向けて

本計画を推進するに当たっては、区立学校の教職員はもとより、保護者や学校関係者、地域の方々などに対して計画内容等の周知・共有を図るとともに、理解・協力を得ることが重要です。

また、東京都や他区市等との必要な連携・協力を図りながら、本区における特別支援教育に取り組む必要があります。

更に、特別支援教育の充実には、国や東京都の広域的な立場からの制度面、財政面を含めた支援が不可欠であることから、今後とも、適時・適切に意見・要望を伝えていくこととします。

本計画の策定に際しては、要綱に基づき設置する「杉並区特別支援教育推進委員会」において、特別支援教育を利用する当事者である児童・生徒、小・中学校等のPTAや障害者団体等の意見を聴きながら検討を進めました。こうした経過を踏まえ、今後は改定した計画を着実に推進するため、同推進委員会で各年度における計画の進捗状況を点検・評価し、その結果等を次年度以降の取組に生かします。

資料編

目次

1 特別支援学校・学級設置経過	51
2 特別支援学級等在籍者の年度別推移	53
■特別支援教室（情緒障害等通級学級（待機児童含む））利用児童・生徒数	
■言語障害学級利用児童数	
■特別支援学級在籍児童・生徒数	
■特別支援学校（済美養護学校）在籍児童・生徒数	
3 過去5年間の就学支援相談結果	55
4 児童・生徒の声	
～特別支援学校・特別支援学級・特別支援教室利用者への アンケート及びヒアリング集計から～	56
(1)資料化について	
(2)アンケート調査票	
(3)アンケート結果	
①【特別支援教室・通級指導学級】 小学校1～4年	
②【特別支援教室・通級指導学級】 小学校5～6年	
③【特別支援教室・通級指導学級】 中学校	
④【特別支援学級】 小学校1～3年	
⑤【特別支援学級】 小学校4～6年	
⑥【特別支援学級】 中学校	
⑦【特別支援学校】 小学校	
⑧【特別支援学校】 中学校	
5 用語解説	104

1 特別支援学校・学級設置経過

(令和3年5月1日現在)

【区立特別支援学校】

種 別	学校名		学級数	開設年度	備 考
知的障害	済美養護	小学部	24	昭和54年度	旧・済美学園はS25開設
		中学部	10		

【特別支援学級（小学校）】

種 別	学校名	学級数	開設年度	備 考	
固定学級	知的障害 (10校)	桃井第三小	2	昭和34年度	
		馬橋小	2	昭和35年度	
		済美小	3	昭和35年度	(注)
		高井戸第二小	4	昭和37年度	
		四宮小	2	昭和38年度	
		杉並第三小	2	昭和40年度	
		桃井第二小	4	昭和55年度	
		天沼小	2	平成20年度	旧・若杉小は、S39開設
		新泉和泉小	3	平成26年度	旧・新泉小は、S36開設
		高円寺小	2	令和2年度	
通級指導学級	情緒障害等	堀之内小	-	昭和46年度	H10.3.31閉級
		杉並第七小	-	平成10年度	特別支援教室拠点校として 制度移行
		富士見丘小	-	平成14年度	
		八成小	-	平成18年度	
		大宮小	-	平成21年度	
	高井戸第四小	-	平成27年度		
	難聴(1校)	高井戸小	1	昭和57年度	
	言語障害 (3校)	高井戸小	2	昭和57年度	
		杉並第十小	3	昭和61年度	杉一小から移設
高井戸第四小		2	平成27年度	桃一小から移設	
特別支援教室 (10小学校エリア)	富士見丘小エリア	-	平成28年度	高井戸小・高二小・久我山小	
	杉並第三小エリア*	-	平成29年度	杉四小・杉八小・杉十小 馬橋小・高円寺小*	
	杉並第七小エリア	-	平成29年度	杉一小・杉二小・杉六小	
	高井戸第四小エリア	-	平成29年度	桃三小・井荻小・松庵小	
	大宮小エリア	-	平成30年度	和田小・方南小・済美小	
	八成小エリア	-	平成30年度	杉九小・桃五小・沓掛小	
	三谷小エリア	-	平成30年度	桃一小・桃四小・四宮小	
	松ノ木小エリア	-	平成30年度	東田小・浜田山小・堀之内小	
	桃井第二小エリア	-	令和元年度	西田小・荻窪小・天沼小	
	永福小エリア	-	令和元年度	高三小・高東小・ 新泉和泉小	
※各エリアの拠点校にも、特別支援教室を設置。					

*杉並第三小エリアの杉四小・杉八小は令和2年度から高円寺小に統合

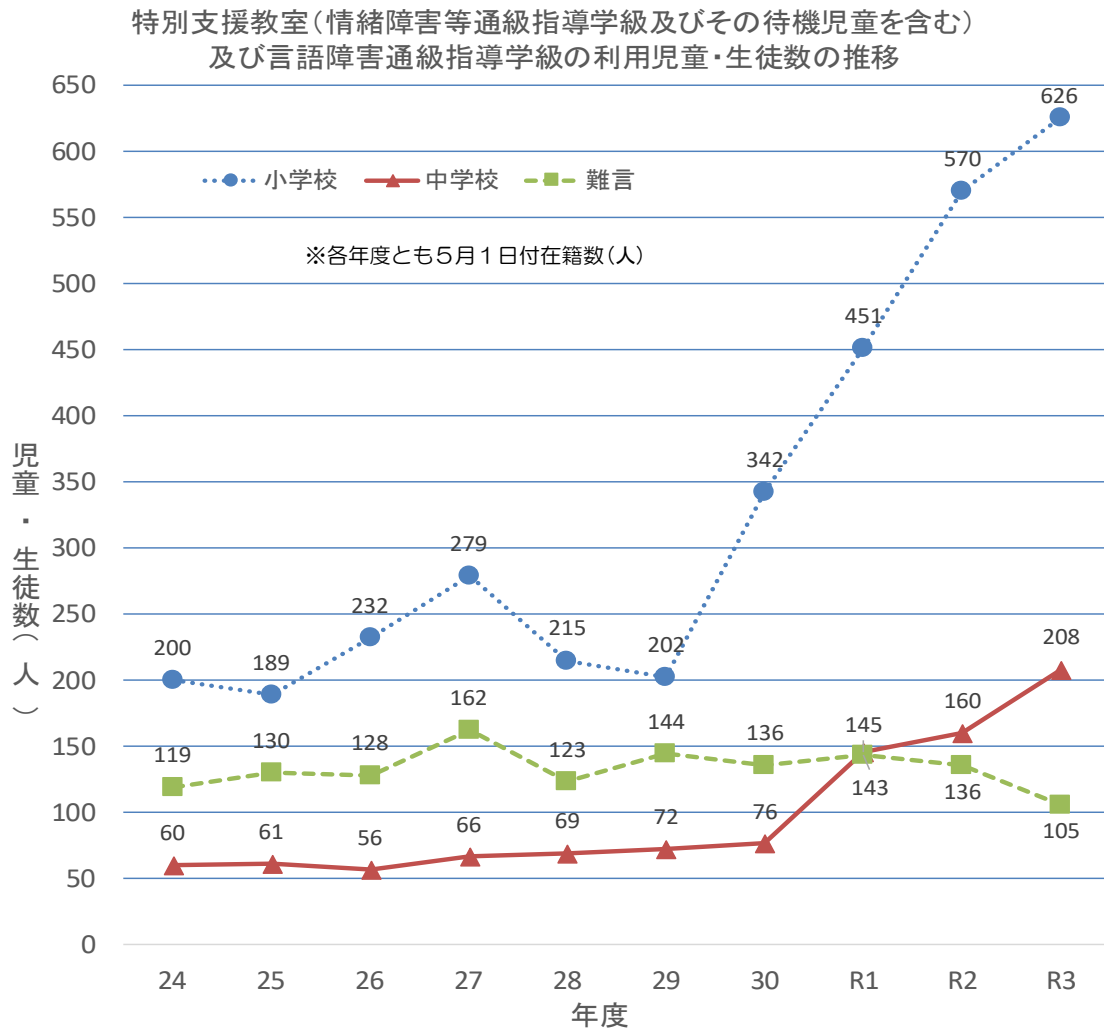
【特別支援学級（中学校）】

種 別	学校名	学級数	開設年度	備 考	
固定学級	知的障害 (5校)	大宮中	2	昭和35年度	(注)
		阿佐ヶ谷中	3	昭和39年度	
		宮前中	2	昭和52年度	
		井草中	4	平成16年度	
		和泉中	3	平成26年度	
		高円寺中		令和2年度	
通級	情緒障害等 (3校)	中瀬中	-	平成9年度	特別支援教室拠点校として 制度移行
		東田中	-	平成19年度	
		高井戸中	-	平成28年度	
	難聴 (1校)	高井戸中	1	昭和57年度	
特別支援教室 (3中学校エリア)	東田中エリア	-	令和元年度	高円寺中・高南中・ 阿佐ヶ谷中・松ノ木中・ 大宮中・泉南中・和田中	
	中瀬中エリア	-	令和元年度	杉森中・天沼中・東原中 井荻中・井草中・荻窪中 神明中	
	高井戸中エリア	-	令和元年度	松溪中・宮前中 富士見丘中・向陽中 西宮中・和泉中	
	※各エリアの拠点校にも、特別支援教室を設置。				

(注) 済美小学校・大宮中学校の特別支援学級

杉並区は昭和25年2月に、済美教育研究所の附属特殊学級として済美学園を開設し、同一校舎に小学部と中学部があった。その後昭和35年度に、小学部は済美小学校、中学部は大宮中学校に移管された。更に、昭和51年度に、済美小学校に現在のかしのみ学級が、大宮中学校に現在のG組（現C組）が、それぞれ設置され、済美学園は済美小学校かしのみ学級及び大宮中学校G組の中重度児学級という位置付けとなり、済美養護学校の開設へとつながった。

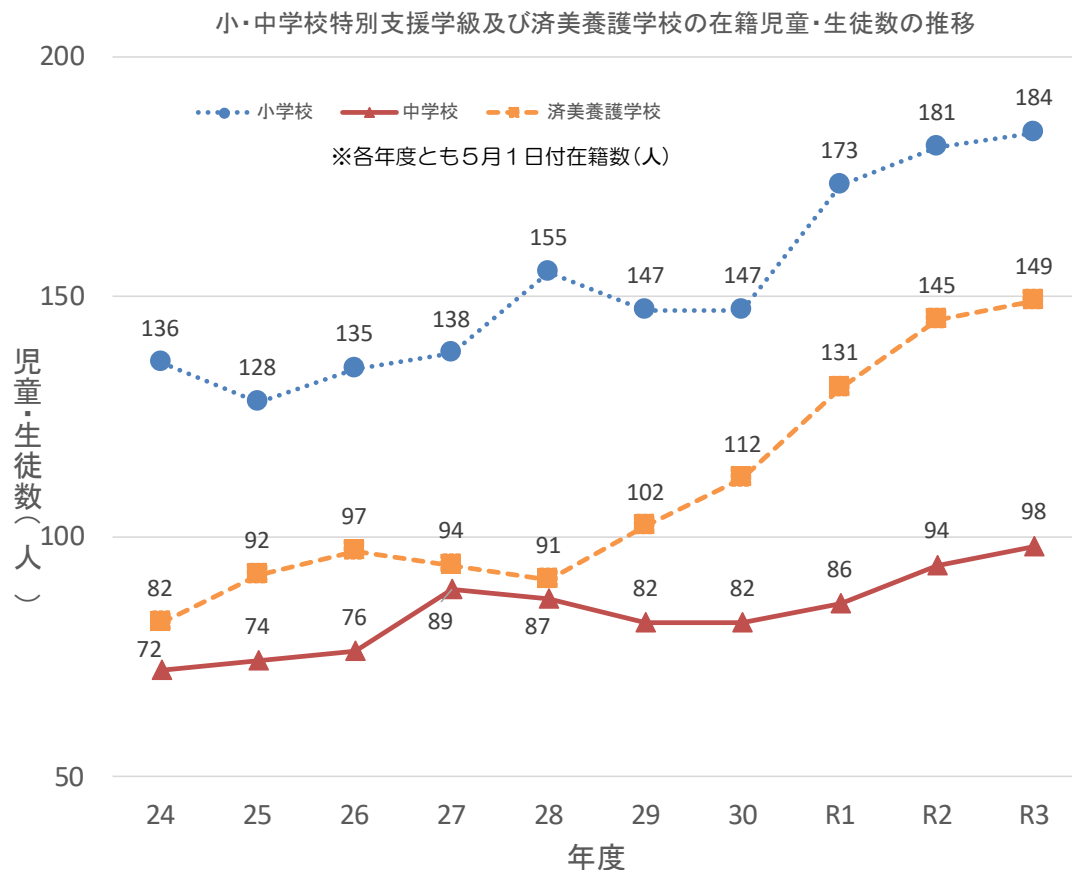
2 特別支援学級等在籍者の年度別推移



特別支援教室(情緒障害通級指導学級及びその待機児童)

	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数
杉並第七小	4	33	4	32	4	32	4	39	4	32	→特別支援教室へ移行							
富士見丘小	4	31	4	32	4	32	4	35	→特別支援教室へ移行									
大宮小	3	24	3	22	3	24	4	35	4	32	→特別支援教室へ移行							
八成小	4	32	4	32	4	32	4	38	4	31	4	34	→特別支援教室へ移行					
高井戸第四小	-	-	-	-	-	-	2	15	2	13	→特別支援教室へ移行							
小学校計	15	120	15	118	15	120	18	162	14	108	8	64	-	-	-	-	-	-
待機児童数	80		71		112		117		61		-		-		-		-	
情緒計+待機児童数	200		189		232		279		169		64		-		-		-	
特別支援教室	-		-		-		-		46		138		342		451		570	
情緒学級+特別支援教室	200		189		232		279		215		202		342		451		570	
東田中	3	22	3	24	3	23	3	30	3	23	3	26	3	27	→特別支援教室へ移行			
中瀬中	4	38	4	37	4	33	4	36	4	39	4	32	4	38	→特別支援教室へ移行			
高井戸中	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	2	14	2	11	→特別支援教室へ移行			
中学校計	7	60	7	61	7	56	7	66	8	69	9	72	9	76	-	-	-	-
特別支援教室	-		-		-		-		-		-		-		145		160	
情緒学級+特別支援教室	60		61		56		66		69		72		76		145		160	
言語障害通級指導学級																		
杉並第十小	2	32	2	38	2	31	2	40	2	30	3	49	3	46	3	47	3	43
桃井第一小	2	35	3	46	3	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高井戸小	3	52	3	46	3	51	3	58	3	49	3	50	3	45	3	50	3	43
高井戸第四小	-	-	-	-	-	-	3	64	3	44	3	45	3	45	3	46	3	43
計	7	119	8	130	8	128	8	162	8	123	9	144	9	136	9	143	9	136
																		7
																		105

2 特別支援学級等在籍者の年度別推移



特別支援学級	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		令和元		2年度		3年度	
	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数
杉並第三小	2	10	2	10	2	10	2	13	2	14	2	16	2	16	3	20	2	15	2	12
馬橋小	2	15	2	13	2	11	2	9	1	8	1	7	1	8	2	12	2	12	2	13
桃井第二小	2	13	2	10	2	9	1	7	2	9	2	12	2	14	3	18	3	20	4	25
桃井第三小	2	15	2	16	3	22	3	18	3	19	3	17	2	15	2	12	2	9	2	13
四宮小	3	19	3	20	3	20	3	23	4	27	4	25	3	22	3	24	3	21	2	15
高井戸第二小	2	16	2	15	3	17	3	17	3	20	3	17	3	18	3	21	4	29	4	31
新泉小	2	15	2	16	2	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
済美小	3	22	3	18	3	22	3	20	3	21	3	19	3	21	3	23	4	27	4	31
天沼小	2	11	2	10	2	11	2	14	2	14	2	13	2	11	3	17	2	13	2	12
新泉和泉小	—	—	—	—	—	—	3	17	3	23	3	21	3	22	4	26	4	27	3	22
高円寺学園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8	2	10
小学校計	20	136	20	128	22	135	22	138	23	155	23	147	21	147	26	173	27	181	27	184
阿佐ヶ谷中	3	17	3	21	3	22	4	27	4	28	3	24	4	25	3	24	3	23	3	19
井草中	3	23	3	23	4	26	4	27	4	27	4	25	3	24	4	26	4	31	4	29
宮前中	2	15	2	16	3	19	2	16	2	13	2	11	1	8	2	11	2	12	2	14
大宮中	3	17	2	14	2	9	2	11	2	10	2	11	2	12	2	9	2	10	2	12
和泉中	—	—	—	—	—	—	1	8	2	9	2	11	2	13	2	16	2	14	3	17
高円寺学園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	1	7
中学校計	11	72	10	74	12	76	13	89	14	87	13	82	12	82	13	86	14	94	15	98
済美養護学校																				
小学部普通	8	35	9	39	11	44	12	46	13	52	13	59	14	64	15	71	16	82	18	86
小学部重度	4	12	4	12	4	11	4	11	4	10	4	10	4	11	5	14	6	17	6	16
計	12	47	13	51	15	55	16	57	17	62	17	69	18	75	20	85	22	99	24	102
中学部普通	6	27	7	32	7	34	7	30	4	21	6	26	6	29	7	40	8	43	9	44
中学部重度	3	8	3	9	3	8	3	7	3	8	3	7	3	8	2	6	1	3	1	3
計	9	35	10	41	10	42	10	37	7	29	9	33	9	37	9	46	9	46	10	47
合計	21	82	23	92	25	97	26	94	24	91	26	102	27	112	29	131	31	145	34	149

3 過去5年間の就学支援相談結果

内 訳		平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	
教育支援委員会「入学・入級検討部会」開催回数(回)		17	28	24	29	33	
就 学 先 学 校 (人)	小 学 校	済美養護学校	19	25	19	18	19
		特別支援学級	32	24	23	23	35
		通常の学級	8	9	16	4	14
		転学	6	23	19	29	22
	小 計		65	81	77	74	90
	中 学 校	済美養護学校	15	18	13	16	16
		特別支援学級	38	20	31	34	28
		通常の学級	2	1	2	0	2
		転学	10	0	6	1	4
	小 計		65	39	52	51	50
合 計		130	120	129	125	140	

4 児童・生徒の声

～特別支援学校・特別支援学級・特別支援教室利用者への

アンケート及びヒアリング集計から～

(1) 児童・生徒のアンケート結果 資料化について

特別支援学校・特別支援学級・特別支援教室の児童・生徒を対象とした今回のアンケートは、区の特別支援教育を利用する一人ひとりの声を計画策定の参考にする目的としています。このため、アンケートについては、個々の自由な想いや発想を示すことができるよう、可能な限り自由に回答できる項目欄を設定しました。

それぞれの回答の記載の内容を1つ1つ丁寧に読み取り、児童・生徒の意図を理解に役立てる必要があります。

一方で、このアンケート結果を本計画の資料の1つとして示すためには、総数 938 件のアンケートの回答結果を集約し、取りまとめ概観することも大切です。

このため、本アンケートを本計画の資料として掲載するにあたっては、回答の傾向を把握していただくことを目的として、各設問に対する回答内に登場するキーワードに注目し、その個数が複数の回答に登場する単語の使用されている回答数を集計し、示しています。

なお、今回示す集計については、上記のとおり、アンケート回答結果の概要を示すものです。今後、本計画の個別の取組の推進のため、このアンケートを活用する際は、その目的に合致する方法を検討の上、十分な分析によることが必要です。

【各項目の留意事項】

1 「〇〇に関するフレーズ」について

(1) 回答数が多いアンケート（例 【特別支援教室・通級指導学級】小学校1～4年アンケート結果 回答数 380 件）では、回答を概観するため、キーワードを集約するフレーズを定め、そのフレーズとしての集計も行っています。このフレーズは、今回のアンケート結果を伝えやすくするための便宜的な整理を目的としています。

(2) フレーズの回答件数について、当該フレーズに含まれる各キーワードの含まれる回答数を積算しています。このため、ある回答で当該フレーズが2以上使われている場合には、当該フレーズのカウントとしては1としています。（例：設問「特別支援教室や、ことば・きこえの教室での、あなたのめあてや目標は何ですか」に対する児童・生徒の回答「苦手な算数を頑張る」とあった場合、「学びに関するフレーズ」のキーワードとしては、「苦手」「算数」が該当し、それぞれのキーワードにカウントするが、この回答の「学びのフレーズ」のキーワードとしての回答件数は1件でカウント。）

2 「キーワード」について

- (1) それぞれのキーワードは、複数回答に登場する言葉を抽出しています。
- (2) 抽出対象は原則として名詞、形容詞としますが、一部特別支援教育の活動に関連深い動詞を含めています。(例 書く、読む、話す など)
- (3) 漢字、ひらがな、カタカナで同一のものは同じキーワードとして集計しています。
(例：キーワードが「体育」の場合、検索した語句は「体育」「たいいく」「タイイク」)
- (4) 活用のある動詞、形容詞については、同じキーワードとして集計しています。
(例：「楽しみ」と「楽しむ」、「動き」と「動く」など)
- (5) 以下のキーワードについては、例として「学校」という単語は、設問「2. 通っている学校では、どんなことが楽しいですか」という設問への回答として「楽しい学校」「みんなが仲良くできる学校」などとなり、回答者の意図に関係せず多く使用されているため、今回のキーワードには含めていません。
 - ・ 学校
 - ・ 時間

3 「〇〇で抽出された回答の概要」について

- (1) キーワードで抽出された回答について、任意の3件を例示しています。(3件以上となる場合には、「など」を記載。) 3件に満たない場合には、原則として、すべての回答を示します。なお、回答内容の趣旨が同一のものは列挙しないこととします。
- (2) 例示する回答の内、個人や学校など特定の団体・機関が特定される内容については掲載しません。

4 その他

記述式の回答については、回答者が記述した表現をそのまま掲載しています。

(2) アンケート調査票

①特別支援教室・通級指導学級（小1～4年生）

とくべつしえんがっきゅう しょうがっこう ねんよう
 (特別支援学級 小学校1～3年用)

じどう
 児童のみなさんへ

すぎなみくとくべつしえんきょういくすいしんいんかい
 杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんの通っている学校を、楽しくてよりよいところにするために、
 いっしょに考えていくためのものです。みなさんがいつも思っていることを、ぜひ教えてください。
 ください。

1 学校では、どんなことが楽しいですか。

2 どんな学校になったらいいなと思いますか。

ほごしゃ かた
 (保護者の方へ)

3 区の特別支援教育に関してご意見があればお書きください。

がっこう	がっきゅう	がくねん
すぎなみくりつ 杉並区立	しょうがっこう 小学校	ねん 年
なまえ		

②特別支援教室・通級指導学級（小5～6年生）

③特別支援教室・通級指導学級（中学生）

とくべつしえんきょうしつ つうきゅうしどうがっきゅうりよう しょうがっこうこうがくねん ちゅうがっこうよう
 （特別支援教室・通級指導学級利用の小学校高学年 中学校用）

じどう せいと
 児童・生徒のみなさんへ

すぎなみくとくべつしえんきょういくすいしんいんかい
 杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんの通っている学校や教室を、楽しくてよりよいところにするために、いっしょに考えていくためのものです。みなさんがいつも思っていることを、ぜひ教えてください。

1 特別支援教室や、ことば・きこえの教室では、どのような力を身に付けたいですか。

--

2 在籍する学校では、どんなことが楽しいですか。

--

3 あなたが考える「いいな、すてきだなと思える学校」は、どのような学校ですか。

--

ほごしゃ かた
 （保護者の方へ）

4 区の特別支援教育に関してご意見があればお書きください。

--

すぎなみくりつ 杉並区立	がっこう 学校	きょうしつ 教室	ねん 年
しめい 氏名			

④特別支援学級（小1～3年生）

とくべつしえんがっきゅう しょうがっこう ねんよう
 （特別支援学級 小学校1～3年生用）

じどう
 児童のみなさんへ

すぎなみくとくべつしえんきょういくすいしんいんかい
 杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんの通っている学校を、楽しくてよりよいところにするために、
 いっしょに考えていくためのものです。みなさんがいつも思っていることを、ぜひ教えてください。

1 学校では、どんなことが楽しいですか。

2 どんな学校になったらいいなと思いますか。

3 区の特別支援教育に関してご意見があればお書きください。

がっこう	がっきゅう	がくねん
すぎなみくりつ 杉並区立	しょうがっこう 小学校	ねん 年
なまえ		

⑤特別支援学級（小4～6年生）

とくべつしえんがっきゅう しょうがっこう ねんよう
 （特別支援学級 小学校4～6年用）

じどう
 児童のみなさんへ

すぎなみくとくべつしえんきょういくすいしんいんかい
 杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんの通っている学校を、楽しくてよりよいところにするために、
 いっしょに考えていくためのものです。みなさんがいつも思っていることを、ぜひ教えてください。

1 学校では、どんなことが楽しいですか。

--

2 どんな学校になったらいいなと思いますか。

--

ほごしや かた
 （保護者の方へ）

3 区の特別支援教育に関してご意見があればお書きください。

--

がっこうめい 学校名	がっきゅうめい 学級名	がくねん 学年
すぎなみくりつ 杉並区立	しょうがっこう 小学校	ねん 年
なまえ 名前		

⑥特別支援学級（中学生）

とくべつしえんがっきゅう ちゅうがっこうよう
 （特別支援学級 中学校用）

せいと
 生徒のみなさんへ

すぎなみくとくべつしえんきょういくすいしんいんかい
 杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんの通^{かよ}っている学校^{がっこう}を、楽^{たの}しくてより良^よいところにするために、
 いっしょに考^{かんが}えていくためのものです。みなさんがいつも思^{おも}っていることを、ぜひ教^{おし}えてく
 ださい。

1 ^{がっこう}学校では、^{たの}どんなことが楽^すしいですか。どんなところが好きですか。

2 ^{かんが}あなたが考^{おも}える「いいな、すてきだなと思^{がっこう}える学校」は、^{がっこう}どのような学校ですか。

^{ほごしゃ かた}
 （保護者の方へ）

3 ^{く とくべつしえんきょういく かん いげん か}
 区の特別支援教育に関してご意見があればお書きください。

^{すぎなみくりつ} 杉並区立	^{ちゅうがっこう} 中学校	^{くみ} 組	^{ねん} 年
^{しめい} 氏名			

⑦特別支援学校（小学生）


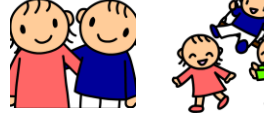
（特別支援学校 小学部）

児童のみなさんへ

杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんのかよっている学校を、たのしくてよりよいところにするために、いっしょに考えていくものです。みなさんがいつも思っていることを、ぜひ教えてください。

☆あてはまるものぜんぶに○をつけてください。

1. がっこうで なにか たのしい？			
	たいいく うんどう		おんがく
	ずこう		こくご さんすう
	こうがい がくしゅう		ともだちと あそぶ
	がっこう ぎょうじ		きゅうしょく

（保護者の方へ）

2. 「こんな事がしたい・してみたい」、「こんな事をもっとがんばりたい・挑戦したい」など、お子様の思いや考えで把握されていることがあれば、お書きください。

3. 区の特別支援教育に関して意見があればお書きください。

がっこうめい 学校名	がくぶ 学部	がくねん 学年	くみ 組	なまえ 名前
すぎなみくりつせいび 杉並区立済美養護学校	しょうがくぶ 小学部	ねん 年	くみ 組	

⑧特別支援学校（中学生）

とくべつしえんがっこう ちゅうがくぶ
（特別支援学校 中学部）

せいと みなさん
生徒の皆さんへ

すぎなみくとくべつしえんきょういくすいしんいんかい
杉並区特別支援教育推進委員会

このアンケートは、みなさんのかよっている学校を、楽しくてよりよいところにするために
いっしょに考えていくものです。みなさんがいつも思っていることを、ぜひ教えてください。

1. どんな学校がすきですか？ そう思うものにすべてまる〇をつけてください。

- ①ともだちと なかよくできる学校
- ②べんきょうが 楽しい学校
- ③せんせいが やさしい たのしい学校
- ④きゅうしょくが おいしい学校
- ⑤いろんな うんどうが できる学校
- ⑥こうがいでの べんきょうが 楽しい学校
- ⑦むずかしいことを 何回も くりかえして やってみることが できる学校
- ⑧そのほか（ ）

ほごしや かた
（保護者の方へ）

2. 「こんな事がしたい・してみたい」、「こんな事をもっとがんばりたい・挑戦したい」など、お子様の思いや考えで把握されていることがあれば、お書きください。

3. 区の特別支援教育に関してご意見があればお書きください。

がっこうめい がくぶ 学校名 学部	がくねん 学年	くみ 組	なまえ 名前
すぎなみくりつせいび ようごがっこう 杉並区立済美養護学校 中学部	ねん 年	くみ 組	

(2) アンケート結果

①【特別支援教室・通級指導学級】小学校1～4年

全体回答数 380

1. 特別支援教室や、ことば・きこえの教室での、あなたのめあてや目標はなんですか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	62
割合	16.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
苦手	20	32.3%	5.3%
勉強	13	21.0%	3.4%
教室	11	17.7%	2.9%
授業	7	11.3%	1.8%
漢字	7	11.3%	1.8%
算数	4	6.5%	1.1%
整理	3	4.8%	0.8%
工作	2	3.2%	0.5%
	67		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「苦手」が使われている回答

・苦手な事をなくしたい ・苦手克服のための手段や方法を身に付ける ・苦手なことにちょうせんする など

○「勉強」が使われている回答

・勉強がわかるようになりたい ・勉強をがんばりたい ・勉強のしかたを考える など

○「教室」が使われている回答

・みんな元気で明るい教室 ・教室でちゃんと座れるようにしたい ・教室で先生の話聞きのがさない など

○「授業」が使われている回答

・集中して授業を受けるため ・じゅぎょう中静かにすること ・道徳の授業が得意になりたい など

○「漢字」が使われている回答

・漢字を覚える ・漢字ができるようになりたい ・漢字のゲームで先生に勝ちたい

○「算数」が使われている回答

・算数をがんばりたい ・算数をこくふくする

○「整理」が使われている回答

・整理整頓ができるようになる ・あたませいりをよくする

○「工作」が使われている回答

・すごい工作を作る ・工作がうまくできるようになりたい

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	30
割合	7.9%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
姿勢	12	40.0%	3.2%
集中	9	30.0%	2.4%
運動	6	20.0%	1.6%
元気	3	10.0%	0.8%
	30		

【心身の状態に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「姿勢」が使われている回答

・姿勢をととのえる ・正しい姿勢を身に付けたい ・姿勢良く話を聞く など

○「集中」が使われている回答

・集中する ・集中して授業を受ける ・集中力をつけたい

○「運動」が使われている回答

・運動を頑張る ・目と手の運動をする ・運動や苦手なことを克服する など

○「元気」が使われている回答

・みんな元気で明るい教室 ・遅刻せず元気に学校に行ける

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	62
割合	16.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
気持ち・感情	31	50.0%	8.2%
楽しい	19	30.6%	5.0%
コントロール	15	24.2%	3.9%
イライラ・おこる	12	19.4%	3.2%
優しい	6	9.7%	1.6%
	83		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「気持ち・感情」が使われている回答

・気持ちを上手に伝える ・気持ちの切替をスムーズにする ・人に思いやりの気持ちをもてるようになる など

○「楽しい」が使われている回答

・楽しく過ごす ・ともだちともっと楽しくかかわれるようにしたい ・先生とお話を楽しくしたい など

○「コントロール」が使われている回答

・感情のコントロール ・気持ちをコントロール ・衝動性のコントロール

○「イライラ・おこる」が使われている回答

・イライラを治す ・すぐにおこったり、ないたりしない ・おこっているときに手をださない など

○「優しい」が使われている回答

・人にやさしくする ・言葉をやさしくする ・優しい人になる

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	145
割合	38.2%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
人	40	27.6%	10.5%
自分	35	24.1%	9.2%
みんな	28	19.3%	7.4%
友達	24	16.6%	6.3%
なかよく	21	14.5%	5.5%
先生	17	11.7%	4.5%
相手	14	9.7%	3.7%
ルール・きまり	6	4.1%	1.6%
協力	3	2.1%	0.8%
けんか	2	1.4%	0.5%
	190		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「人」が使われている回答

・人の話を聞く ・人の話を理解する ・人に思いやりの気持ちをもてるようになる など

○「自分」が使われている回答

・自分の気持ちをうまく伝える ・自分から手をあげて発言する ・自分も相手も気持ちよく過ごす など

○「みんな」が使われている回答

・みんなの前ではなす ・みんなと仲良くする ・みんなと同じように学校に行きたい など

○「友達」が使われている回答

・友達との関わりかた ・友達を上げます ・友達と協力して苦手なことをできるようにする など

○「なかよく」が使われている回答

・みんなとなかよくする ・友達となかよくする ・いろいろな人と仲良くする など

○「先生」が使われている回答

・先生の話をよく聞く ・自分の気持ちを友達や先生に伝えられるようにする ・先生の話すことをわかるようになりたい など

- 「相手」が使われている回答
 ・相手の話を聞く ・相手の気持ちを考える ・言葉で相手に伝える など
- 「ルール・きまり」が使われている回答
 ・ルールを守る ・きまりの時間に他の人を待たせない
- 「協力」が使われている回答
 ・協力しあって活動する ・友達と協力して苦手なことをできるようになる
- 「けんか」が使われている回答
 ・反だちとけんかをしてしない

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	99
割合	26.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
聞く	31	31.3%	8.2%
言葉	23	23.2%	6.1%
書く	20	20.2%	5.3%
音・声・言う	10	10.1%	2.6%
コミュニケーション	9	9.1%	2.4%
考える	9	9.1%	2.4%
読む	2	2.0%	0.5%
意見	2	2.0%	0.5%
	106		

【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「聞く」が使われている回答
 ・人の話を聞く ・相手の目を見て話を聞く ・わからないことを聞く など
- 「言葉」が使われている回答
 ・言葉の力をつける ・言いくい言葉をすらすらはなす ・じぶんの言葉で話す など
- 「書く」が使われている回答
 ・ノートをきれいに書けるようになりたい ・字を書くことが上手になりたい ・ていねいに書く など
- 「音・声・言う」が使われている回答
 ・発音をしっかりとする ・声を上手に出す ・大きくはきはき言う など
- 「コミュニケーション」が使われている回答
 ・ソーシャルスキルとコミュニケーションができるようになる ・コミュニケーションの取り方を教えてもらう
 ・人とのコミュニケーションを高める など
- 「考える」が使われている回答
 ・相手の気持ちを考える ・ペンきょうのしかたを考える ・いろんなことを深く考える など
- 「読む」が使われている回答
 ・いろいろなジャンルの本を読むこと ・すらすらと正しく読む力 など
- 「意見」が使われている回答
 ・相手の意見を聞いてから自分の考えを伝える ・自分の考えや意見を伝える

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	11
割合	2.9%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
きれい	7	63.6%	1.8%
本	2	18.2%	0.5%
しずか	2	18.2%	0.5%
	11		

【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】

- 「きれい」が使われている回答
 ・ノートをきれいに書けるようにしたい ・字をきれいに書く
 ・ことばをきれいに発音できるようになること など
- 「本」が使われている回答
 ・本がはやく読めるようになる ・いろいろなジャンルの本を読む
- 「しずか」が使われている回答
 ・じゅぎょう中、しずかにする ・しずかに人の話をきく

4 児童・生徒の声

7. その他

回答件数	19
割合	5.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし・ありません	13	68.4%	3.4%
ブランク	6	31.6%	1.6%
	19		

1～6及び上記に含まれない回答	80	-	21.1%
-----------------	----	---	-------

①【特別支援教室・通級指導学級】小学校1～4年

全体回答数 380

2.通っている学校ではどんなことが楽しいですか。

1. 授業に関するフレーズ

回答件数	156
割合	41.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
図工・すがこうさく	57	36.5%	15.0%
体育	42	26.9%	11.1%
授業	32	20.5%	8.4%
勉強	21	13.5%	5.5%
算数	17	10.9%	4.5%
教室（支援教室）	16	10.3%	4.2%
国語	9	5.8%	2.4%
理科	8	5.1%	2.1%
生活	8	5.1%	2.1%
音楽	7	4.5%	1.8%
漢字	6	3.8%	1.6%
道徳	3	1.9%	0.8%
英語	2	1.3%	0.5%
	228		

【授業に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「図工・すがこうさく」が使われている回答

- ・図工で木の工作が楽しい ・図工の授業 ・図工で作品を作る など

○「体育」が使われている回答

- ・体育のドッチボール ・体育が楽しい ・体育で走る時 など

○「授業」が使われている回答

- ・クラスでの授業 ・担任の先生の授業がすごく楽しい ・図工の授業 など

○「勉強」が使われている回答

- ・勉強が楽しい ・外での勉強 ・友達と一緒に勉強するなど

○「算数」が使われている回答

- ・算数で九九の問題を解くこと ・算数のプリント ・算数の授業 など

○「教室（支援教室）」が使われている回答

- ・（支援教室名）教室が楽しい ・（支援教室名）教室のお楽しみの時間 ・（支援教室名）教室のゲーム など

○「国語」が使われている回答

- ・国語の授業 ・国語のカタカナ ・国語の勉強 など

○「理科」が使われている回答

- ・理科の虫の授業 ・理科の実験が好き ・理科が楽しい など

○「生活」が使われている回答

- ・生活の授業

○「音楽」が使われている回答

- ・音楽の授業

○「漢字」が使われている回答

- ・漢字の勉強 ・漢字を習う ・リラックマの漢字 など

○「道徳」が使われている回答

- ・道徳で考えることが楽しい ・道徳の授業 ・道徳の時間

○「英語」が使われている回答

- ・英語の授業

2. 授業以外に関するフレーズ

回答件数	196
割合	51.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
休み	92	46.9%	24.2%
遊ぶ	41	20.9%	10.8%
おにごっこ	31	15.8%	8.2%
ボール・サッカー	19	9.7%	5.0%
給食	16	8.2%	4.2%
本	16	8.2%	4.2%
読む	10	5.1%	2.6%
話す・おしゃべり	8	4.1%	2.1%
ゲーム	7	3.6%	1.8%
タブレット・パソコン	6	3.1%	1.6%
折り紙	6	3.1%	1.6%
絵	6	3.1%	1.6%
朝遊び・朝にわ	2	1.0%	0.5%
クラブ	2	1.0%	0.5%
考える	2	1.0%	0.5%
一輪車	2	1.0%	0.5%
	266		

【授業以外に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「休み」が使われている回答

- ・中休みに遊ぶ
- ・休み時間に友達と話す
- ・昼休みの校庭 など

○「遊ぶ」が使われている回答

- ・友達とあそび
- ・みんなと校庭で遊ぶ
- ・遊びの時間 など

○「おにごっこ」が使われている回答

- ・おにごっこで遊ぶ

○「ボール・サッカー」が使われている回答

- ・キャッチボール
- ・ドッチボール
- ・サッカー など

○「給食」が使われている回答

- ・給食を食べる
- ・給食がおいしい

○「本」が使われている回答

- ・一人で本を読む
- ・図書室の本が多い
- ・本をたくさん読む など

○「読む」が使われている回答

- ・図書室にたくさんあるのでその本を読むのが楽しい。
- ・休み時間に本を読む
- ・図書で本を読む など

○「話す、おしゃべり」が使われている回答

- ・みんなと話すと楽しい
- ・友達と話す
- ・友達とおしゃべり など

○「ゲーム」が使われている回答

- ・フルーツバスケットや爆弾ゲーム
- ・先生とゲームをする
- ・ゲームの話をする など

○「タブレット・パソコン」が使われている回答

- ・タブレット学習
- ・タブレットの機能を教えてもらう
- ・パソコン など

○「折り紙」が使われている回答

- ・折り紙が楽しい
- ・折り紙で遊ぶ

○「絵」が使われている回答

- ・絵をかく

○「朝遊び・朝にわ」が使われている回答

- ・朝遊びでの友達とのボール遊び
- ・朝にわ

○「クラブ」が使われている回答

- ・クラブ活動
- ・クラブ（工作）

○「考える」が使われている回答

- ・中休みにゲームのことをかんがえてはしているとき
- ・道徳で考えること

○「一輪車」が使われている回答

- ・一輪車の練習

3. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	70
割合	18.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	45	64.3%	11.8%
先生	22	31.4%	5.8%
クラス	5	7.1%	1.3%
クラスメイト・クラスの子	3	4.3%	0.8%
一人	3	4.3%	0.8%
	78		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「友達」が使われている回答

・友達と会えるのが楽しい ・友達や先生とのやりとり ・いろんな友達と関わりが持てること など

○「先生」が使われている回答

・担任の先生や色々な先生とお話をする ・先生がおもしろい
・先生におこられてイライラしてイスをけっちゃん など

○「クラス」が使われている回答

・クラス遊びをすること ・クラスでの係活動（ダンス係でみんなにダンスを教える）
・違うクラスの子や先生たちと仲良くできる など

○「クラスメイト・クラスの子」が使われている回答

・大好きなクラスメイトと会うのが楽しい ・クラスメイトとのおしゃべり など

○「一人」が使われている回答

・一人で本を読むこと ・一人で遊ぶのが楽しい

4. その他

回答件数	22
割合	5.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	割合
ない・ありません	12	54.5%	3.2%
ブランク	10	45.5%	2.6%
	22		

1～6及び上記に含まれない回答	52	-	13.7%
-----------------	----	---	-------

①【特別支援教室・通級指導学級】小学校1～4年

全体回答数 380

3.通っている学校がどんな学校になればいいと思いますか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	53
割合	13.9%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	22	41.5%	5.8%
教室	14	26.4%	3.7%
勉強	12	22.6%	3.2%
給食	7	13.2%	1.8%
苦手	3	5.7%	0.8%
工作	2	3.8%	0.5%
	60		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「授業」が使われている回答

- ・もっととく意分野、苦手分野に合った授業がいい ・校外授業をたくさんやりたい
- ・パソコン、プログラミングを使う授業が増えてほしい など

○「教室」が使われている回答

- ・支援教室の様な学習がやさしい学校になれば嬉しい ・支援教室が大好き ・教室ですごすのが辛い など

○「勉強」が使われている回答

- ・皆で楽しく勉強とかできる ・勉強がもっと難しくなってほしい ・勉強なくていい学校 など

○「給食」が使われている回答

- ・給食がおいしい ・給食の時間が長くなる ・給食で魚のメニューがもっと増えればいい など

○「苦手」が使われている回答

- ・苦手分野に合った授業や対応をしてほしい ・苦手に対して手伝ってくれる人が沢山いて欲しい

○「工作」が使われている回答

- ・工作ができればいい ・工作好きのやさしい学校になってほしい

2. 身体・健康に関するフレーズ

回答件数	7
割合	1.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
元気	7	100.0%	1.8%
運動	4	57.1%	1.1%
	11		

【身体・健康に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「元気」が使われている回答

- ・みんな元気な学校 ・元気であきらめない ・元気でいいクラスにしたい

○「運動」が使われている回答

- ・運動する時間が沢山ほしい ・運動できる所が広いなど ・運動が好きなのですべて体育になったら嬉しい

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	67
割合	17.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
楽しい	57	85.1%	15.0%
優しい	19	28.4%	5.0%
	76		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「楽しい」が使われている回答

- ・明るく楽しい ・行くのが楽しみになる ・みんなが楽しい など

○「優しい」が使われている回答

- ・先生が優しい ・やさしさがある ・みんなが優しく心配がなくなる など

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	107
割合	28.2%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
みんな	46	43.0%	12.1%
けんか	29	27.1%	7.6%
なかよく	29	27.1%	7.6%
先生	16	15.0%	4.2%
友達	11	10.3%	2.9%
自分	8	7.5%	2.1%
人	5	4.7%	1.3%
ルール	4	3.7%	1.1%
	148		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「みんな」が使われている回答

・みんな仲良く遊べる ・みんなでがんばれる ・みんなが共存しあう公平で楽しい など

○「けんか」が使われている回答

・けんかがない ・けんかをしない

○「なかよく」が使われている回答

・みんな仲がよい ・誰とでも仲良くなれる

○「先生」が使われている回答

・優しい先生 ・自分の事を理解してくれる先生がふえたらうれしい ・先生の言ったことを守る など

○「友達」が使われている回答

・友達がたくさんいる ・友達を大切にする ・友達同士のけんかが起こらない など

○「自分」が使われている回答

・自分の夢をおいかげられる ・自分の得意分野で能力を伸ばせる授業があればいい

・自分の事を理解してくれる先生がふえたらうれしい など

○「人」が使われている回答

・手伝ってくれる人が沢山いて欲しい ・人が少なく、教室が小さいと良い

・1人1人の特徴を考える学校 など

○「ルール」が使われている回答

・ルールを守る ・じぶんたちがルールをきめられる

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	5
割合	1.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
意見	3	60.0%	0.8%
書く	2	40.0%	0.5%
	5		

【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「意見」が使われている回答

・意見が分かれた時でもケンカしない ・皆がいろんな意見を持てる

○「書く」が使われている回答

・字を書くのが少なくなる

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	84
割合	22.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
休み	17	20.2%	4.5%
いじめ・いじわる	14	16.7%	3.7%
～のまま	11	13.1%	2.9%
平和	6	7.1%	1.6%
笑顔・笑う	6	7.1%	1.6%
自由	6	7.1%	1.6%
面白い	5	6.0%	1.3%
きれい	4	4.8%	1.1%
安心	3	3.6%	0.8%
仲間はすれ	3	3.6%	0.8%

4 児童・生徒の声

本	3	3.6%	0.8%
宿題	3	3.6%	0.8%
しずか	3	3.6%	0.8%
悪口	3	3.6%	0.8%
怒られない	3	3.6%	0.8%
安全	2	2.4%	0.5%
差別	2	2.4%	0.5%
	94		

【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】

- 「休み」が使われている回答
 - ・休み時間が長い ・休み時間をもっとある ・休み時間に仲間はずれしないうようになってほしい など
- 「いじめ・いじわる」が使われている回答
 - ・いじめがない ・うるさい子やいじめる子はいない
- 「～のまま」が使われている回答
 - ・今のままが楽しい ・今のままであってほしい ・そのままがいい
- 「平和」が使われている回答
 - ・平和な学校
- 「笑顔・笑う」が使われている回答
 - ・笑顔がいっぱい ・みんなが仲よくなってみんなが笑える ・笑顔の学校
- 「自由」が使われている回答
 - ・自由な(自主的な)学校がいい ・自由で好きなことがたくさんできる
- 「面白い」が使われている回答
 - ・皆が面白い ・おもしろい学校 ・飛び級があればもっとおもしろい
- 「きれい」が使われている回答
 - ・きれいな学校 ・トイレがきれい
- 「安心」が使われている回答
 - ・安心して通える ・安全・安心な学校 ・家族みたいに安心できる
- 「仲間はずれ」が使われている回答
 - ・仲間はずれがない ・仲間はずれをしない
- 「本」が使われている回答
 - ・かりられる本が一週間8～10さつだったらいい ・図書館にいなくても教室に本がある
- 「宿題」が使われている回答
 - ・宿題が無い
- 「しずか」が使われている回答
 - ・もう少ししずかになればいい ・しずかにマスクを鼻までする
- 「悪口」が使われている回答
 - ・悪口を言わない ・ケンカや悪口がない
- 「怒られる」が使われている回答
 - ・みんなが怒られない ・先生や他の生徒におこられることが無い
- 「安全」が使われている回答
 - ・皆が安全に気をつける ・安全・安心な学校
- 「差別」が使われている回答
 - ・差別がない

7. その他

回答件数	37
割合	9.7%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	23	62.2%	6.1%
ブランク	14	37.8%	3.7%
	37		

1～6及び上記に含まれない回答	106	-	27.9%
-----------------	-----	---	-------

②【特別支援教室・通級指導学級】小学5・6年

全体回答数 147

1. 特別支援教室や、ことば・きこえの教室での、あなたのめあてや目標はなんですか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	25
割合	17.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
考える	6	24.0%	4.1%
国語	4	16.0%	2.7%
苦手	4	16.0%	2.7%
きつ音	4	16.0%	2.7%
整理	3	12.0%	2.0%
作文	2	8.0%	1.4%
授業	2	8.0%	1.4%
覚える	2	8.0%	1.4%
	27		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「考える」が使われている回答

- ・考える力をつけたい
- ・自分の言葉で考えを伝える
- ・相手の気持ちを考える

○「国語」が使われている回答

- ・国語の理解力
- ・国語能力をきたえたい
- ・国語の「話す・聞く」のテストでよい点数をとれる力

○「苦手」が使われている回答

- ・板書が苦手
- ・苦手の克服
- ・苦手なもの（書くこと、考えること）を補える力を身につけたい

○「きつ音」が使われている回答

- ・きつ音をなおす
- ・きつ音が出にくくなる力を身につけたい
- ・きつ音ははずかしいことでないことを理解する

○「整理」が使われている回答

- ・整理せいとん
- 整理整頓を完ぺきにする力

○「作文」が使われている回答

- ・苦手な作文を上手に書く
- ・自分ひとりで作文を組み立てて書く

○「授業」が使われている回答

- ・授業中にがんばれる力をつけたい
- ・大きな声を出すなどの授業中の行動をおさえる

○「覚える」が使われている回答

- ・覚える力

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	12
割合	8.2%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
集中	8	66.7%	5.4%
運動	4	33.3%	2.7%
	12		

【心身の状態に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「集中」が使われている回答

- ・集中力を身に付ける
- ・集中力のアップ
- ・集中してきく

○「運動」が使われている回答

- ・運動
- ・運動能力
- ・目の運動

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	21
割合	14.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
気持ち・感情	14	66.7%	9.5%
コントロール	10	47.6%	6.8%
イライラ・おこる・怒り	4	19.0%	2.7%
	28		

4 児童・生徒の声

<p>【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「気持ち・感情」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現する ・感情のコントロール ・相手の気持ちを考えるなど <p>○「コントロール」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちをコントロールする ・感情のコントロール ・自分をコントロールするなど <p>○「イライラ・おこる・怒り」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イライラしないようにする ・おこらないようにしたい ・怒りのおさえ方
--

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	52
割合	35.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
自分	20	38.5%	13.6%
人	14	26.9%	9.5%
友達	11	21.2%	7.5%
相手	7	13.5%	4.8%
みんな	5	9.6%	3.4%
協力	4	7.7%	2.7%
先生	2	3.8%	1.4%
仲良く	2	3.8%	1.4%
	65		

<p>【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「自分」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をしっかりとつ ・自分の言葉で伝える ・自分からあいさつする など <p>○「人」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話をよく聞く ・人前でも緊張せずに話す ・人の気持ちをわかるようになりたい など <p>○「友達」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わり方 ・友達とうまく話せるようになりたい ・友達とさら仲良くなりたい <p>○「相手」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えた行動をする ・自分の考えを相手に伝えるように話す ・相手が不快になる言い方をしない など <p>○「みんな」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力する事 ・みんなと仲良くできる力 ・みんなに聞こえるように話す など <p>○「協力」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなとの協力 ・友達と協力して物事に取り組む ・人と協力する <p>○「先生」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達と適切にコミュニケーションをとる ・先生が言ったことを理解する <p>○「仲良く」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とさらに仲良くなりたい ・みんなと仲良くできる力
--

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	31
割合	21.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
コミュニケーション	10	32.3%	6.8%
音・声	9	29.0%	6.1%
言葉	7	22.6%	4.8%
書く	7	22.6%	4.8%
漢字	4	12.9%	2.7%
聞く	2	6.5%	1.4%
	39		

<p>【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「コミュニケーション」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とのコミュニケーション力 ・人とのコミュニケーションを取りやすいようにしたい <p>○「音・声」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しく発音する ・きつ音をなおす ・声を大きくしたい <p>○「言葉」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の伝え方 ・相手に自分の言葉で伝えられるようになる ・言葉の発音 など <p>○「書く」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字をきれいに書く ・文をすらすら書く ・ていねいに書く など <p>○「漢字」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 ・漢字を書けるようになる <p>○「聞く」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きちんと聞く力 ・国語の「書く・聞く」テストで良い点をとる

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	3
割合	2.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
きれい	3	100.0%	2.0%
	3		

<p>【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「きれい」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字をきれいに書く ・きれいに歩く

7. その他

回答件数	19
割合	12.9%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし・ありません	13	68.4%	8.8%
ブランク	6	31.6%	4.1%
	19		

1～6及び上記に含まれない回答	43	-	29.3%
-----------------	----	---	-------

②【特別支援教室・通級指導学級】小学5・6年

全体回答数 147

2.通っている学校ではどんなことが楽しいですか。

1. 授業に関するフレーズ

回答件数	47
割合	32.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	21	44.7%	14.3%
図工	14	29.8%	9.5%
勉強	9	19.1%	6.1%
体育	9	19.1%	6.1%
音楽	8	17.0%	5.4%
理科	7	14.9%	4.8%
教室（支援教室）	6	12.8%	4.1%
行事	3	6.4%	2.0%
算数	2	4.3%	1.4%
国語	2	4.3%	1.4%
	81		

【授業に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「授業」が使われている回答
 ・音楽や体育の授業 ・授業が楽しい ・好きな授業 など

○「図工」が使われている回答
 ・図工の授業 ・図工の工作 など

○「勉強」が使われている回答
 ・勉強をわかりやすく面白く伝えてくれる ・勉強し努力すること ・先生と勉強すること など

○「体育」が使われている回答
 ・体育の授業 ・体育全般 ・体育のハンドボール など

○「音楽」が使われている回答
 ・音楽の授業 ・音楽を勉強すること

○「理科」が使われている回答
 ・理科の実験 ・理科の授業

○「教室（支援教室）」が使われている回答
 ・（支援教室名）教室に行くこと ・（支援教室名）教室の授業 ・（支援教室名）教室では笑顔になれる など

○「行事」が使われている回答
 ・みんなで何かを取り組む行事 ・見たり聴いたりする行事

○「算数」が使われている回答
 ・算数で未知の計算を知っていくこと ・算数の勉強

○「国語」が使われている回答
 ・国語の授業

2. 授業以外に関するフレーズ

回答件数	67
割合	45.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
遊ぶ・遊び	28	41.8%	19.0%
休み	25	37.3%	17.0%
給食	12	17.9%	8.2%
話す	8	11.9%	5.4%
おにごっこ	8	11.9%	5.4%
本	5	7.5%	3.4%
放課後	3	4.5%	2.0%
ボール	3	4.5%	2.0%
クラブ	2	3.0%	1.4%
タブレット・パソコン	2	3.0%	1.4%
絵	2	3.0%	1.4%
	98		

<p>【授業以外に関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「遊ぶ・遊び」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶこと ・体育館で遊び ・自由に遊ぶこと など <p>○「休み」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間にやるゲーム ・休み時間に友達と遊ぶこと ・休み時間工作 など <p>○「給食」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べること ・給食の時間 ・給食がおいしい など <p>○「話す」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生と話すこと ・友達と話すこと ・みんなと話すこと など <p>○「おにごっこ」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とおにごっこすること ・おにごっことボール遊び <p>○「本」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室で本を読むこと ・本を読んでいるとき ・自分にあった本を先生が選んでくれること など <p>○「放課後」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後遊び ・放課後にやるメチャあて <p>○「ボール」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊び ・ハンドボール <p>○「クラブ」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動 ・合唱クラブ <p>○「タブレット・パソコン」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでまとめたり調べたりすること ・パソコンでの調べ学習 <p>○「絵」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由帳に絵をかくこと ・人、動物、植物などの絵を書くこと

3. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	36
割合	24.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	26	72.2%	17.7%
クラス	6	16.7%	4.1%
先生	6	16.7%	4.1%
	38		

<p>【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「友達」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話しているとき ・友達から誘われたりすること ・友達と気持ちよく授業を受けること など <p>○「クラス」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスが明るい ・クラスみんな中で休みや昼やすみに遊ぶこと ・クラスが楽しい など <p>○「先生」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の授業 ・先生とお話したりクイズをすること ・先生の授業
--

4. その他

回答件数	13
割合	8.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・ありません・なし	4	30.8%	2.7%
blank	9	69.2%	6.1%
	13		

1～6及び上記に含まれない回答	25	-	17.0%
-----------------	----	---	-------

②【特別支援教室・通級指導学級】小学5・6年

全体回答数 147

3.通っている学校がどんな学校になればいいと思いますか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	11
割合	7.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	10	90.9%	6.8%
工作	2	18.2%	1.4%
	12		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「授業」が使われている回答

- ・楽しく授業ができる
- ・遊ぶときはちょっとふざけて、授業は真面目に受けて、ルールをきちんと守る
- ・先生が面白い授業をしてくれる など

○「工作」が使われている回答

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	2
割合	1.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
元気	2	100%	1.4%
	2		

【心身の状態に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「元気」が使われている回答

- ・みんなが仲良く元気な学校

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	27
割合	18.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
楽しい	17	63.0%	11.6%
優しい	10	37.0%	6.8%
	27		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「楽しい」が使われている回答

- ・友達、先生、学校に関わる全ての人が楽しくて休みたくないみんなに会いたい!と思えるような学校
- ・みんなが楽しく過ごせる学校
- ・授業が楽しい学校 など

○「優しい」が使われている回答

- ・いじめが無くて、皆が優しいクラス
- ・みんなが明るく優しく仲良くなれる学校
- ・先生が優しい など

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	71
割合	48.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
みんな	38	53.5%	25.9%
人	18	25.4%	12.2%
仲良く	12	16.9%	8.2%
先生	9	12.7%	6.1%
けんか	9	12.7%	6.1%
友達	7	9.9%	4.8%
協力	7	9.9%	4.8%
ルール	4	5.6%	2.7%
自分	4	5.6%	2.7%
一人	3	4.2%	2.0%
	111		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「みんな」が使われている回答

- ・みんなが毎日楽しくかよえる学校
- ・みんなが協力できて、自分以外の人を思いあえる学校
- ・いじめがなくみんなで力を合わせてどんな困なんも乗り越える学校 など

○「人」が使われている回答

- ・一人一人毎日楽しいなと思える学校
- ・誰一人とりのこされる人がいない学校
- ・ほくをうけいれてくれる人 など

○「仲良く」が使われている回答

- ・だれとでも仲良くなれる学校
- ・けんかしても悪いところを認められて、みんなが仲良くすごせる学校
- ・笑顔があふれてみんなが仲良くしている学校 など

○「先生」が使われている回答

- ・なんでも話をできる先生がいる学校
- ・先生と児童がみんな明るい学校
- ・生徒が「この先生なら合ってるな」と思える学校 など

○「けんか」が使われている回答

- ・けんかのない平和な学校
- ・けんかがない1人1人を尊重できる学校
- ・けんかやトラブルなしで、約束を守る学校 など

○「友達」が使われている回答

- ・友達が沢山いてなんでも話をできる先生がいる学校
- ・ともだちがたくさんできる学校
- ・ともだちがよりそってくれる など

○「協力」が使われている回答

- ・みんなで協力しあっていじめなどのない学校
- ・心のやさしい人が多くて、協力し合える学校
- ・みんなと協力してじゅぎょうをうける など

○「ルール」が使われている回答

- ・ルールをきちんとまもる学校
- ・みんながルールを守り、仲よく楽しく過ごせる学校
- ・ルールよりマナーを重視する学校

○「自分」が使われている回答

- ・自分のすきなことができる学校
- ・自分がやりたいじゅぎょうをえらべる
- ・自分以外の人を思いあえる学校

○「一人」が使われている回答

- ・一人一人が個性がある
- ・一人一人毎日楽しいなと思える学校
- ・誰一人とりのこされる人がいない学校

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	2
割合	1.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
言葉	2	100%	1.4%
	2		

【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「言葉」が使われている回答

- ・行動や言葉づかいが乱暴でない

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	36
割合	24.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
いじめ	22	61.1%	15.0%
きれい	5	13.9%	3.4%
悪口	4	11.1%	2.7%
平和	3	8.3%	2.0%
笑顔	3	8.3%	2.0%
いやな	2	5.6%	1.4%
宿題	2	5.6%	1.4%
	41		

<p>【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「いじめ」が使われている回答 ・けんかやいじめのない学校 ・いじめがなくて、皆が優しいクラス ・いじめのない平和な学校 など</p> <p>○「きれい」が使われている回答 ・校舎がきれいな学校 ・物がおちていないきれいなクラス ・自然がきれい</p> <p>○「悪口」が使われている回答 ・悪口を言わない ・いじめや悪口のないみんな友達と考える学校</p> <p>○「平和」が使われている回答 ・平和な学校</p> <p>○「笑顔」が使われている回答 ・笑顔で過ごせる学校 ・みんな笑顔で楽しく過ごせる ・笑顔があふれてみんなが仲良くしている学校</p> <p>○「いやな」が使われている回答 ・からかうような嫌な人がいない ・いやなことを言わない</p> <p>○「宿題」が使われている回答 ・みんなが宿題を出すなどけじめをつけてがんばれる学校 ・宿題がない</p>
--

7. その他

回答件数	3
割合	2.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	3	100%	2.0%
ブランク	0	0%	0.0%
	3		

1～6及び上記に含まれない回答	34	-	23.1%
-----------------	----	---	-------

③【特別支援教室・通級指導学級】中学校

全体回答数 131

1. 特別支援教室や、ことば・きこえの教室での、あなたのめあてや目標はなんですか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	21
割合	16.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
苦手	6	28.6%	4.6%
勉強	5	23.8%	3.8%
授業	3	14.3%	2.3%
国語	3	14.3%	2.3%
作文	3	14.3%	2.3%
記憶	3	14.3%	2.3%
理解	3	14.3%	2.3%
	26		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「苦手」が使われている回答

・自分が苦手なことをもっと伸ばす ・暗記が苦手 ・作文が苦手なのでスラスラ文章を書けるようになりたい など

○「勉強」が使われている回答

・漢字の勉強 ・嫌いな教科の勉強のしかた ・建築士の勉強などわかるようになりたい など

○「授業」が使われている回答

・授業やテストなどにもっと集中したい ・授業で分からなかったところを復習する
・せい活や、じゅぎょうのこと など

○「国語」が使われている回答

・国語力

○「作文」が使われている回答

・作文や物をうつすこと ・作文が苦手なのでスラスラ文章を書けるようになりたい

○「記憶」が使われている回答

・記憶力

○「理解」が使われている回答

・相手に自分の考えを理解してもらえようコミュニケーション力を付けたい ・理解力

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	5
割合	3.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
集中	5	100.0%	3.8%
	5		

【心身の状態に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「集中」が使われている回答

・授業やテストなどにもっと集中する ・集中力

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	6
割合	4.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
気持ち・感情	3	50.0%	2.3%
楽しい	2	33.3%	1.5%
コントロール	2	33.3%	1.5%
	7		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「気持ち・感情」が使われている回答

- ・人の気持ちを考えてから話せるようになりたい
- ・自分の気持ちの整え方
- ・感情のコントロール

○「楽しい」が使われている回答

- ・誰とも楽しくゲームをして力を身に着けたい
- ・楽しく学ぶ力

○「コントロール」が使われている回答

- ・感情のコントロール
- ・自分をコントロールする力

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	34
割合	26.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
人	16	47.1%	12.2%
自分	12	35.3%	9.2%
友達	4	11.8%	3.1%
先生	3	8.8%	2.3%
相手	3	8.8%	2.3%
みんな	2	5.9%	1.5%
	40		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「人」が使われている回答

- ・人の前で発表を上手にできるようになりたい
- ・人前で大きな声を出して話せるようになりたい
- ・人との話し方を上手く使えるようになりたい など

○「自分」が使われている回答

- ・客観視で自分の行動を見る
- ・自分にできることとできないことを見極めたい
- ・自分の考えを相手に伝えられるようにしたい など

○「友達」が使われている回答

- ・友達関係を築く力
- ・友達との関わり方やテストの仕方
- ・友達とのコミュニケーション など

○「先生」が使われている回答

- ・先生に相談してもらったアドバイスを実行する力
- ・先生などの上方と話すことが苦手だった
- ・先生とたくさん話すこと

○「相手」が使われている回答

- ・相手とのコミュニケーション
- ・相手に自分の考えを理解してもらえようにする
- ・自分の考えを相手に伝えられるようにしたい

○「みんな」が使われている回答

- ・みんなと仲良くすごす
- ・みんなの前で発表したりする力をつけたい

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	49
割合	37.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
コミュニケーション	29	59.2%	22.1%
書く	9	18.4%	6.9%
言葉	7	14.3%	5.3%
聞く	6	12.2%	4.6%
読む	3	6.1%	2.3%
声	2	4.1%	1.5%
	56		

<p>【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「コミュニケーション」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの取り方 ・コミュニケーション能力 ・先生とたくさん話している時や、いっしょにコミュニケーションゲームをすること など <p>○「書く」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が思っていることを文字にして書くこと ・記憶力と速く書く力を身に付けたい ・字をていねいにかく など <p>○「言葉」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を高める言葉の数をふやす ・言葉づかいにきをつける ・言葉の力を身に付ける など <p>○「聞く」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く力を身に付けたい ・人の話をよく聞く ・聞きとり など <p>○「読む」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文をスラスラ読みたい ・読みや書きの力を身に付けたい ・人の空気を読んだり、自然な日本語を話せるようになりたい <p>○「声」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で大きな声を出して話せるようになりたい ・声づかいや聞く力を身に付けたい
--

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	0
割合	0.0%

※重複を除く

7. その他

回答件数	19
割合	14.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし・ありません	3	15.8%	2.3%
ブランク	17	89.5%	13.0%
	20		

1～6及び上記に含まれない回答	23	-	17.6%
-----------------	----	---	-------

③【特別支援教室・通級指導学級】中学校

全体回答数 131

2.通っている学校ではどんなことが楽しいですか。

1. 授業に関するフレーズ

回答件数	31
割合	23.7%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	12	38.7%	9.2%
行事	6	19.4%	4.6%
体育	4	12.9%	3.1%
理科	3	9.7%	2.3%
音楽	3	9.7%	2.3%
教室	3	9.7%	2.3%
勉強	2	6.5%	1.5%
美術	2	6.5%	1.5%
合唱祭	2	6.5%	1.5%
	37		

<p>【授業に関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「授業」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で発言すること ・授業を受けて、何か出来るが増えること ・音楽、家庭科の授業が楽しい など <p>○「行事」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や合唱祭などの行事 ・運動会や合唱コンクールなどの行事 ・色々な行事が楽しい など <p>○「体育」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や校外学習 ・体育が楽しい <p>○「理科」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験 ・理科の本を読むこと <p>○「音楽」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おんがくのじゅぎょう ・音楽 <p>○「教室」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの教室 <p>○「勉強」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強 ・勉強するところ <p>○「美術」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術 ・絵を描くことが好きなので美術が楽しい <p>○「合唱祭」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や合唱祭などの行事 ・運動会や合唱コンクールなどの行事

2. 授業以外に関するフレーズ

回答件数	61
割合	46.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
話す	24	39.3%	18.3%
休み	10	16.4%	7.6%
本	10	16.4%	7.6%
部活	9	14.8%	6.9%
遊び	9	14.8%	6.9%
給食	7	11.5%	5.3%
生活	3	4.9%	2.3%
タブレット	2	3.3%	1.5%
サッカー	2	3.3%	1.5%
	76		

【授業以外に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「話す」が使われている回答

・友だちと話すこと ・先生たちと話すこと ・体験したことを話すこと など

○「休み」が使われている回答

・友だちと昼休みに雑談 ・休み時間 ・昼休みに友人とサッカーすること など

○「本」が使われている回答

・本を読んでいるとき ・理解の本を読むこと

○「部活」が使われている回答

・部活動

○「遊び」が使われている回答

・校庭が広いので、おもいっきり遊べる ・友達との交流（おしゃべりや遊ぶことなど）

○「給食」が使われている回答

・給食を食べること ・給食もおいしいが味が大人

○「生活」が使われている回答

・学校生活が上手いかわからない中でも、授業に参加して有意義な学習ができた ・みんなで楽しく生活すること

○「タブレット」が使われている回答

・タブレットを使用しているとき ・タブレットが使えること

○「サッカー」が使われている回答

・昼休みに友人とサッカーすること ・サッカーの話をすること

3. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	44
割合	33.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	37	84.1%	28.2%
先生	7	15.9%	5.3%
クラス	4	9.1%	3.1%
	48		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「友達」が使われている回答

・友達と一緒に好きなものについて話したり、将来のことを話し合うこと ・友達が優しい

・友達と登校すること など

○「先生」が使われている回答

・先生に話を聞いてもらうこと ・先生たちと話すことが楽しい ・先生にすぐ相談できる点

○「クラス」が使われている回答

・クラス、学年で友達と話し合うこと ・クラスのみんなが仲が良い

4. その他

回答件数	7
割合	5.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	3	42.9%	2.3%
blank	4	57.1%	3.1%
	7		

1～6及び上記に含まれない回答	29	-	22.1%
-----------------	----	---	-------

③【特別支援教室・通級指導学級】中学校

全体回答数 131

3.通っている学校がどんな学校になればいいなと思いますか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	7
割合	5.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	5	71.4%	3.8%
給食	2	28.6%	1.5%
	7		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「授業」が使われている回答

- ・授業中にICTを積極的に使用する学校
- ・授業がわかりやすい
- ・じゅぎょう前には皆、座わっていたらいいなと思います など

○「給食」が使われている回答

- ・給食が美味しい
- ・給食がおいしいと思える学校

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	4
割合	3.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
元気	4	100%	3.1%
	4		

【心身の状態に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「元気」が使われている回答

- ・元気なあいさつが、聞こえる学校
- ・明るくて元気があってみんな楽しいと思える学校
- ・あかるくげんきでいじめがない学校

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	23
割合	17.6%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
楽しい	16	69.6%	12.2%
優しい	7	30.4%	5.3%
	23		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「楽しい」が使われている回答

- ・みんなが楽しい学校
- ・1人1人が個性を出せるのびのびとした楽しい学校
- ・学校に来て少しでも楽しかったと思える学校

○「優しい」が使われている回答

- ・生徒が全員心優しい学校
- ・先生がやさしいところ
- ・誰にでもやさしく、平和な学校

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	73
割合	55.7%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
みんな	21	28.8%	16.0%
人	15	20.5%	11.5%
先生	14	19.2%	10.7%
仲良く	8	11.0%	6.1%
友達	4	5.5%	3.1%
自分	4	5.5%	3.1%
クラス	3	4.1%	2.3%
けんか	2	2.7%	1.5%
協力	2	2.7%	1.5%
	73		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「みんな」が使われている回答
- ・みんなで考え解決へ向かうような学校
 - ・みんな平等な学校
 - ・みんなが協力、助け合える学校 など
- 「人」が使われている回答
- ・一人一人が言いたいことを自分の言葉で話せる
 - ・話の合う人がたくさんいる学校
 - ・1人1人を大切に考えてくれる学校 など
- 「先生」が使われている回答
- ・先生と友達がやさしくて助け合える学校
 - ・生徒と先生の壁があまりない
 - ・わからない所はしっかりと教えてくれる先生のいる学校 など
- 「仲良く」が使われている回答
- ・みんなが仲良い学校
 - ・クラス、みんなが仲良く、お互いみとめあい、助けあえる明るい学校
 - ・男女をこえて仲よし など
- 「友達」が使われている回答
- ・先生と友達がやさしくて助け合える学校
 - ・教科や班や友達ともっと協力する
 - ・友達とささえられる学校など
- 「自分」が使われている回答
- ・自分の言葉で話せる
 - ・自分たちで、積極的に、動くことができる
 - ・自分がいて安心感がある など
- 「クラス」が使われている回答
- ・男女の差別がなく、クラス、学年が仲良しな学校
 - ・クラス、学年が仲よし
 - ・クラス、みんなが仲よし
- 「けんか」が使われている回答
- ・けんかが無い
- 「協力」が使われている回答
- ・教科で班や友達ともっと協力するといひ
 - ・みんなが協力、助け合える学校

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	11
割合	8.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
言う	4	36.4%	3.1%
聞く	3	27.3%	2.3%
あいさつ	3	27.3%	2.3%
意見	2	18.2%	1.5%
	12		

【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「言う」が使われている回答
- ・悪口を言う人やいじめをする人が少なく楽しくすごせる学校
 - ・言いたいことを自分の言葉で話す
 - ・他人のことを悪く言わない など
- 「聞く」が使われている回答
- ・話を聞いてくれる学校
 - ・他人の意見を聞く学校
 - ・元気なあいさつが、聞こえる学校
- 「あいさつ」が使われている回答
- ・あいさつがおもいやりの多い学校
 - ・元気なあいさつが、聞こえる学校
 - ・あいさつがあふれている
- 「意見」が使われている回答
- ・学校に全校生徒の意見や理想が実現される
 - ・他人の意見を聞く学校

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	32
割合	24.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
いじめ	15	46.9%	11.5%
面白い	4	12.5%	3.1%
個性	3	9.4%	2.3%
笑顔	3	9.4%	2.3%
(この)まま・(今の)まま	2	6.3%	1.5%
安心	2	6.3%	1.5%
宿題	2	6.3%	1.5%
自由	2	6.3%	1.5%
	33		

<p>【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「いじめ」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない学校 ・いじめを受けている子への配慮 <p>○「面白い」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が面白い ・おもしろい本がたくさんある ・先生の話が面白い <p>○「個性」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性豊かな学校 ・生徒中心の学校 ・個性あふれる学校 ・1人1人が個性を出せるのびのびとした楽しい学校 <p>○「笑顔」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが笑顔で通学する ・笑顔や笑いが絶えない学校 <p>○「～まま」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままでいい ・今のままで良い <p>○「安心」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心に平等にすごせる学校 ・自分がいて安心感がある <p>○「宿題」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しゅくだいがない <p>○「自由」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な学校 ・自由に登校出来るような学校

7. その他

回答件数	7
割合	5.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	4	57.1%	3.1%
ブランク	3	42.9%	2.3%
	7		
1～6及び上記に含まれない回答	38	-	29.0%

④【特別支援学級】小学1～3年

全体回答数 57

1.通っている学校では、どんなことが楽しいですか。

1. 授業に関するフレーズ

回答件数	21
割合	36.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
勉強	7	33.3%	12.3%
図工	7	33.3%	12.3%
音楽	6	28.6%	10.5%
算数	5	23.8%	8.8%
体育	3	14.3%	5.3%
授業	2	9.5%	3.5%
国語	2	9.5%	3.5%
	32		

【授業に関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「勉強」が使われている回答
 ・集中して勉強すること ・グループでのタブレットでのべんきょう
- 「図工」が使われている回答
 ・図工が楽しい ・図工で飾りを作ったり好きな製作をすること
 ・図工でいろんなものを作ってみんなに見てもらえること
- 「音楽」が使われている回答
 ・音楽の時間 ・音楽が楽しい
- 「算数」が使われている回答
 ・算数のiPad ・算数のべん強が楽しみ ・算数でコンパスを使う時
- 「体育」が使われている回答
 ・体育がすき ・体育で走ること
- 「授業」が使われている回答
 ・体いくと音がくのじゅぎょう ・算数の授業
- 「国語」が使われている回答
 ・国語

2. 授業以外に関するフレーズ

回答件数	32
割合	56.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
遊ぶ	14	43.8%	24.6%
休み	10	31.3%	17.5%
iPad	5	15.6%	8.8%
給食	4	12.5%	7.0%
おにごっこ	3	9.4%	5.3%
図書	2	6.3%	3.5%
	38		

【授業以外に関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「遊ぶ」が使われている回答
 ・おともだちとあそぶこと ・そとあそび ・友だちと遊んだり話すこと など
- 「休み」が使われている回答
 ・休み時間にお絵描き、工作をする ・中休みに竹馬であそぶ ・休み時間にみんなと鬼ごっこをする事 など
- 「iPad」が使われている回答
 ・算数のiPadが楽しい ・アイパッドがたのしい
- 「給食」が使われている回答
 ・給食も楽しい
- 「おにごっこ」が使われている回答
 ・おにごっこがたのしい ・みんなと鬼ごっこをする事
- 「図書」が使われている回答
 ・としょ ・としょしつ

4 児童・生徒の声

3. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	4
割合	7.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	3	75.0%	5.3%
先生	2	50.0%	3.5%
	5		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「友達」が使われている回答

・お友達と一緒にいる ・友達にあうのがたのしい など

○「先生」が使われている回答

・せんせいにあうのがたのしい ・〇〇先生

4. その他

回答件数	2
割合	3.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・ありません・なし	1	50.0%	1.8%
ブランク	1	50.0%	1.8%
	2		

1～6及び上記に含まれない回答	12	-	21.1%
-----------------	----	---	-------

④【特別支援学級】小学1～3年

全体回答数 57

2.通っている学校がどんな学校になればいいと思いますか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	6
割合	10.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
勉強	4	66.7%	7.0%
体育	2	33.3%	3.5%
	6		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「勉強」が使われている回答

- ・勉強が好きなので楽しく勉強がしたい
- ・むずかしいペンギょうをおしえてほしい

○「体育」が使われている回答

- ・体育の時間をふやしてほしい
- ・体育のじかんが少なくなってしまう

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	0
割合	0

※重複を除く

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	10
割合	17.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
楽しい	9	90.0%	15.8%
優しい	2	20.0%	3.5%
	11		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「楽しい」が使われている回答

- ・楽しく勉強がしたい
- ・楽しい学校

○「優しい」が使われている回答

- ・せんせいがやさしい
- ・やさしい学校

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	11
割合	19.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	3	27.3%	5.3%
仲良く	3	27.3%	5.3%
みんな	2	18.2%	3.5%
	8		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「友達」が使われている回答

- ・ともだちとあそびたい
- ・ともだちを増やしたい

○「仲良く」が使われている回答

- ・なかよくあそべる
- ・なかよく、しっかりいうことをきく

○「みんな」が使われている回答

- ・みんなで楽しくやりたい
- ・みんなが仲よくする学校

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	0
割合	0

※重複を除く

4 児童・生徒の声

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	0
割合	0

※重複を除く

7. その他

回答件数	11
割合	19.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	3	27.3%	5.3%
ブランク	8	72.7%	14.0%
	11		

1～6及び上記に含まれない回答	24	-	42.1%
-----------------	----	---	-------

⑤【特別支援学級】小学4～6年

全体回答数 60

1.通っている学校では、どんなことが楽しいですか。

1. 授業に関するフレーズ

回答件数	29
割合	48.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
図工	11	37.9%	18.3%
算数	5	17.2%	8.3%
音楽	5	17.2%	8.3%
体育	5	17.2%	8.3%
授業	4	13.8%	6.7%
勉強	4	13.8%	6.7%
国語	4	13.8%	6.7%
富士学園	2	6.9%	3.3%
	40		

【授業に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「図工」が使われている回答

- ・図工で作ることが楽しい ・図工(粘土) ・図工で色をぬること など

○「算数」が使われている回答

- ・支援学級の算数 ・さんすうのおべんきょう

○「音楽」が使われている回答

- ・音楽の歌が楽しい ・音楽会の準備で歌ったり楽器の練習をすること

○「体育」が使われている回答

- ・体育でおおなわとびとび箱とフロアボールをするのが楽しい

○「授業」が使われている回答

- ・体育の授業と図工の授業 ・音楽の授業

○「勉強」が使われている回答

- ・クラスのみなどと勉強する事 ・みんなでおしゃべりしたり運動とか勉強が楽しい ・さんすうのおべんきょう

○「国語」が使われている回答

- ・図書室へ行って、本を選ぶことも楽しく、読むことや国語が好きになった

○「富士学園」が使われている回答

- ・富士学園

2. 授業以外に関するフレーズ

回答件数	29
割合	48.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
休み	14	48.3%	23.3%
遊ぶ	14	48.3%	23.3%
給食	7	24.1%	11.7%
図書	4	13.8%	6.7%
アイパッド・パソコン	3	10.3%	5.0%
話す	2	6.9%	3.3%
おにごっこ	2	6.9%	3.3%
ボール	2	6.9%	3.3%
	48		

4 児童・生徒の声

【授業以外に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「休み」が使われている回答

- ・昼休みに、絵をかくこと ・休み時間の読書 ・15分休み時間にとうそう中をやること など

○「遊ぶ」が使われている回答

- ・新しい遊び、好きな遊び、挑戦したいことを考えることが楽しい ・先生と休み時間に遊ぶこと
- ・休み時間にあそぶこと など

○「給食」が使われている回答

- ・給食を皆で食べること ・給食でフルコギ丼を食べること ・給食がすき など

○「図書」が使われている回答

- ・図書室へ行って、本を選ぶこと ・図書の時間 ・図書館へ行く事

○「アイパッド・パソコン」が使われている回答

- ・アイパッドが楽しい ・パソコン

○「話す」が使われている回答

- ・友達と話すこと

○「おにごっこ」が使われている回答

- ・休み時間にやる鬼ごっこが楽しい

○「ボール」が使われている回答

- ・体育でおおなわとびととび箱とフロアボールをするのが楽しい ・みんなとするボールあそび

3. 人との関わりに関する対象とするフレーズ

回答件数	17
割合	28.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	13	76.5%	21.7%
先生	6	35.3%	10.0%
	19		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「友達」が使われている回答

- ・ともだちとはなすこと ・先生ともだちと校庭で、こおりおになどであそぶこと

○「先生」が使われている回答

- ・休み時間に、先生とお友達と色々な遊びをすること ・中休み先生と遊ぶこと

4. その他

回答件数	4
割合	6.7%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない	3	75.0%	5.0%
ブランク	1	25.0%	1.7%
	4		
1～6及び上記に含まれない回答	5	-	8.3%

⑤【特別支援学級】小学4～6年

全体回答数 60

2.通っている学校がどんな学校になればいいと思いますか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	8
割合	13.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	3	37.5%	5.0%
給食	3	37.5%	5.0%
体育	2	25.0%	3.3%
	8		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「授業」が使われている回答

・ユーチューバーのような授業の進行 ・授業でもっとパソコンを使えたらいい

○「給食」が使われている回答

・給食と弁当、どちらでもよい学校 ・きゅうしょくがおいしい学校

○「体育」が使われている回答

・たいいくがおい

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	2
割合	3.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
元気	2	100%	3.3%
	2		

【心身の状態に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「元気」が使われている回答

・げんきいっぱいのがっこう ・元気よくたのしい学校

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	15
割合	25.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
楽しい	13	86.7%	21.7%
優しい	2	13.3%	3.3%
	15		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「楽しい」が使われている回答

・明るく楽しい学校になったらいい ・いまのままでたのしい

・新しいことがあると毎日ドキドキして楽しそう など

○「優しい」が使われている回答

・やさしい気持ちになれる学校

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	12
割合	20.0%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
みんな	5	41.7%	8.3%
友達	2	16.7%	3.3%
先生	2	16.7%	3.3%
遊ぶ	2	16.7%	3.3%
けんか	2	16.7%	3.3%
ルール・規律	2	16.7%	3.3%
	15		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「みんな」が使われている回答
 ・みんなが楽しく過ごせる学校 ・みんなで遊べたらいいな ・みんなが笑顔になれる事 など

○「友達」が使われている回答
 ・お友達をたくさん作って、いつまでも通いたい ・もっと友達がたくさん出来ると嬉しい

○「先生」が使われている回答
 ・先生がおこらない ・先生も生徒も笑顔がある学校

○「遊ぶ」が使われている回答
 ・学校全員で遊べる時間があったらいい ・みんなで遊べたらいいな

○「けんか」が使われている回答
 ・けんかやいじめがない学校

○「ルール・規律」が使われている回答
 ・ルールをまもってあんげんな学校にしたい
 ・規律があり、雰囲気の良い学校 ・先生も生徒も笑顔がある学校

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	0
割合	0

※重複を除く

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	9
割合	15%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
(今の)まま	5	55.6%	8.3%
笑顔	2	22.2%	3.3%
いじめ	2	22.2%	3.3%
	9		

【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】

○「～まま」が使われている回答
 ・今のままでいい ・今のままで楽しい ・このままでいい

○「笑顔」が使われている回答
 ・みんなが笑顔になれる事 ・先生も生徒も笑顔がある学校

○「いじめ」が使われている回答
 ・けんかやいじめがない学校

7. その他

回答件数	10
割合	16.7%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	6	60%	10.0%
ブランク	4	40%	6.7%
	10		

1～6及び上記に含まれない回答	17	-	28.3%
-----------------	----	---	-------

⑥【特別支援学級】中学校

全体回答数 79

1.通っている学校では、どんなことが楽しいですか。

1. 授業に関するフレーズ

回答件数	44
割合	55.7%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
体育	13	29.5%	16.5%
授業	12	27.3%	15.2%
勉強	10	22.7%	12.7%
音楽	9	20.5%	11.4%
数学	5	11.4%	6.3%
英語	5	11.4%	6.3%
美術	5	11.4%	6.3%
家庭(科)	5	11.4%	6.3%
国語	4	9.1%	5.1%
社会	4	9.1%	5.1%
技術	3	6.8%	3.8%
教室	3	6.8%	3.8%
	78		

【授業に関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「体育」が使われている回答

- ・体育で体を動かすこと
- ・体育で走ったりボールを使って体を動かすこと
- ・体育が楽しい など

○「授業」が使われている回答

- ・職業家庭の授業が楽しい
- ・校外学習をふくむ授業
- ・授業の内容 など

○「勉強」が使われている回答

- ・社会で、世界の事を勉強すること
- ・皆と一緒に勉強をする事
- ・グループでともだちとべんきょうすること

○「音楽」が使われている回答

- ・音楽で歌ったり楽器をえんそうすること
- ・音楽が好き

○「数学」が使われている回答

- ・数学で分数をしたい
- ・数学でかけざんとひきざんがすき

○「英語」が使われている回答

- ・英語のローマ字のクイズ
- ・英語の授業

○「美術」が使われている回答

- ・美術の授業

○「家庭(科)」が使われている回答

- ・家庭科のししゅう
- ・職業家庭
- ・家庭科(ぬいもの)

○「国語」が使われている回答

- ・国語でグループでともだちとべんきょうすること
- ・国語は文しょうをつくること

- ・国語で4年生のかんじをしたい

○「社会」が使われている回答

- ・社会で、世界の事を勉強すること
- ・社会の授業

○「技術」が使われている回答

- ・技術で糸のこを使ってバターナイフを作ったりすること

○「教室」が使われている回答

- ・教室が広いこと
- ・教室が好き

4 児童・生徒の声

2. 授業以外に関するフレーズ

回答件数	32
割合	40.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
話す	19	59.4%	24.1%
給食	7	21.9%	8.9%
部活	6	18.8%	7.6%
休み	4	12.5%	5.1%
遊ぶ	4	12.5%	5.1%
絵	2	6.3%	2.5%
	42		

<p>【授業以外に関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「話す」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話す事 ・友達とか先輩とかにあうといるんな話しができてうれしい ・毎日先生と話ができること など <p>○「給食」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい給食 ・給食時に流れる音楽 <p>○「部活」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活で友達や仲間と一緒に歌ったり気分転換できる ・部活でアドバイスしてくれる人がいる ・友達と一緒に部活をすること <p>○「休み」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に友達と仲よく話しをすること ・休み時間に絵を書くこと ・休み時間に友達と遊ぶこと <p>○「遊ぶ」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともだちとあそんだりお話しすること ・友だちと大アリーナであそぶこと <p>○「絵」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で絵をかいたりすることが楽しい
--

3. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	33
割合	41.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
友達	23	69.7%	29.1%
先生	10	30.3%	12.7%
先輩	4	12.1%	5.1%
クラス	3	9.1%	3.8%
	40		

<p>【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】</p> <p>○「友達」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともだちとはなすこと ・先生ともだちと校庭で、こおりおになどであそぶこと <p>○「先生」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に、先生とお友達と色々な遊びをすること ・中休み先生と遊ぶこと <p>○「先輩」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩や後輩が和気藹々と過ごしていてとても居心地がいい ・先輩との話 ・友達とか先輩とかにあうといるんな話しができてうれしい <p>○「クラス」が使われている回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスのみんなといっしょにお話をする ・クラスのみんなや先生達があたたかく迎えてくれる

4. その他

回答件数	1
割合	1.3%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	0	-	0.0%
空白	1	100%	1.3%
	1		

1～6及び上記に含まれない回答	7	-	8.9%
-----------------	---	---	------

⑥【特別支援学級】中学校

全体回答数 79

2.通っている学校がどんな学校になればいいなと思いますか。

1. 学びに関するフレーズ

回答件数	13
割合	16.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
授業	7	53.8%	8.9%
給食	3	23.1%	3.8%
勉強	2	15.4%	2.5%
教室	2	15.4%	2.5%
	14		

【学びに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「授業」が使われている回答

- ・教師と生徒が楽しく授業できること
- ・友達と楽しく会話ができて授業もおもしろい
- ・ほかの学年ともじゅぎょうをうけたりできる など

○「給食」が使われている回答

- ・給食をもっと楽しく工夫出来る学校
- ・給食がビッフェスタイルになる
- ・給食の放送でのイベントがある

○「勉強」が使われている回答

- ・いろんなおべんぎょうを教えてもらえる
- ・外でべんぎょうするきかいも3回はできる学校

○「教室」が使われている回答

- ・教室がきれいで広い

2. 心身の状態に関するフレーズ

回答件数	0
割合	0

※重複を除く

3. 気持ちに関するフレーズ

回答件数	23
割合	29.1%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
楽しい	18	78.3%	22.8%
優しい	5	21.7%	6.3%
	23		

【気持ちに関するフレーズで抽出された回答の概要】

○「楽しい」が使われている回答

- ・みんなが学校に楽しくいけるとすてきだと思う
- ・教師と生徒が楽しく授業できること
- ・友達と楽しく会話ができて授業もおもしろい

○「優しい」が使われている回答

- ・皆が優しくしあえ明るく出来る学校
- ・みんなが優しくうるさくない
- ・優しく、思いやりのある学校

4. 人との関わりに関するフレーズ

回答件数	39
割合	49.4%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
みんな	22	56.4%	27.8%
仲良く	12	30.8%	15.2%
友達	7	17.9%	8.9%
人	7	17.9%	8.9%
先生	5	12.8%	6.3%
協力	4	10.3%	5.1%
クラス	3	7.7%	3.8%
	60		

【人との関わりに関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「みんな」が使われている回答
 - ・みんながわらってたのしい学校
 - ・みんなと協力しながら、授業に取り組む学校
 - ・みんなが、ふまんなくとうこうできる
- 「仲良く」が使われている回答
 - ・みんなが仲よく過ごせる学校
 - ・クラスの友達ときょうりよくして仲よくなる
 - ・ともだちとせんせいとなかよくできる
- 「友達」が使われている回答
 - ・いろいろな人と話して友達になれる学校
 - ・友達と楽しく会話ができる
 - ・良い先生やお友達がたくさんいる
- 「人」が使われている回答
 - ・どの人でもゆずり合いの精神がある学校
 - ・ていねい語を使う人が多い
 - ・他のクラスの人と楽しく交流できて知っている人がいっぱいいる学校
- 「先生」が使われている回答
 - ・先生と生徒が上手にコミュニケーションをとること
 - ・良い先生やお友達がたくさんいる学校
 - ・ともだちとせんせいとなかよくできるといいな
- 「協力」が使われている回答
 - ・クラスの友達ときょうりよくして、仲よくなること
 - ・どの学年も仲がよくて、協力して生活し、明るい学校
 - ・みんなときょうりよくができる
- 「クラス」が使われている回答
 - ・やさしくて思いやりがあるクラス

5. コミュニケーションスキルに関するフレーズ

回答件数	3
割合	3.8%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
あいさつ	3	100%	3.8%
	3		

【コミュニケーションスキルに関するフレーズで抽出された回答の概要】

- 「あいさつ」が使われている回答
 - ・明るくあいさつができるメリハリがある
 - ・あいさつがしっかりできて、皆が優しくしあえる明るく出来る

6. 1～5以外のフレーズ

回答件数	13
割合	16.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
きれい	6	46.2%	7.6%
いじめ・いじわる	5	38.5%	6.3%
笑顔	3	23.1%	3.8%
差別	2	15.4%	2.5%
	16		

【1～5以外のフレーズで抽出された回答の概要】

- 「きれい」が使われている回答
 - ・きれいな学校
 - ・きれいなまど
 - ・きれいな教室で授業をうけたい
- 「いじめ・いじわる」が使われている回答
 - ・いじめや差別のない学校
 - ・いじめゼロの学校
 - ・いじわるなんかいなかったり、みんなが仲良くえがおでかよえる学校 など
- 「笑顔」が使われている回答
 - ・笑顔が絶えない真面目な学校
 - ・みんなが仲良くえがおでかよえる学校
- 「差別」が使われている回答
 - ・差別や、不公平なく、いじめのない学校
 - ・いじめや差別のない学校

7. その他

回答件数	2
割合	2.5%

※重複を除く

キーワード	件数	項目に対する割合	全体に対する割合
ない・なし	0	-	0.0%
ブランク	2	100%	2.5%
	2		

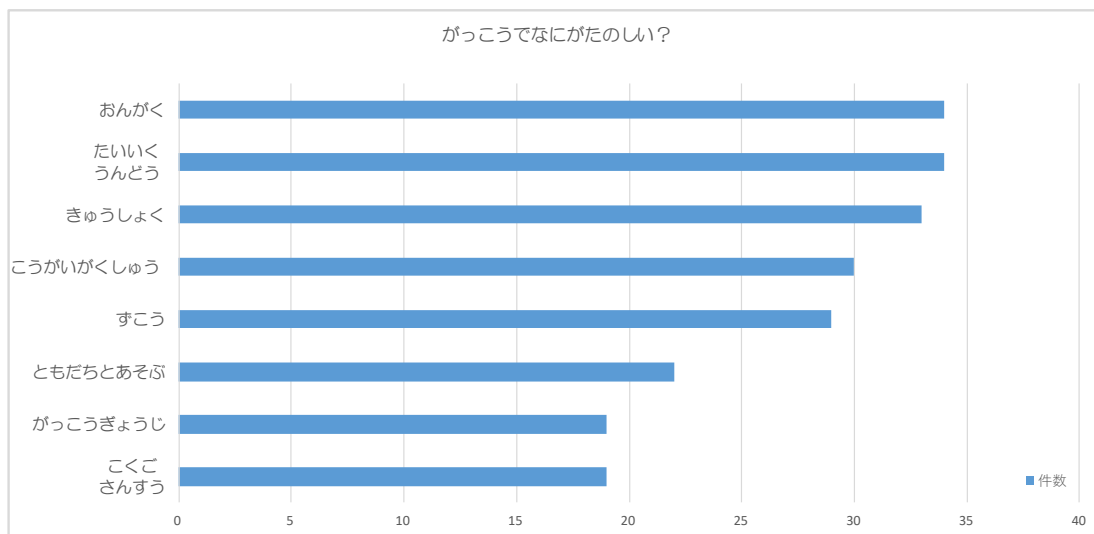
1～6及び上記に含まれない回答	18	-	22.8%
-----------------	----	---	-------

㉗【特別支援学校】小学部

全体回答数

48

1. がっこうでなにがたのしい？



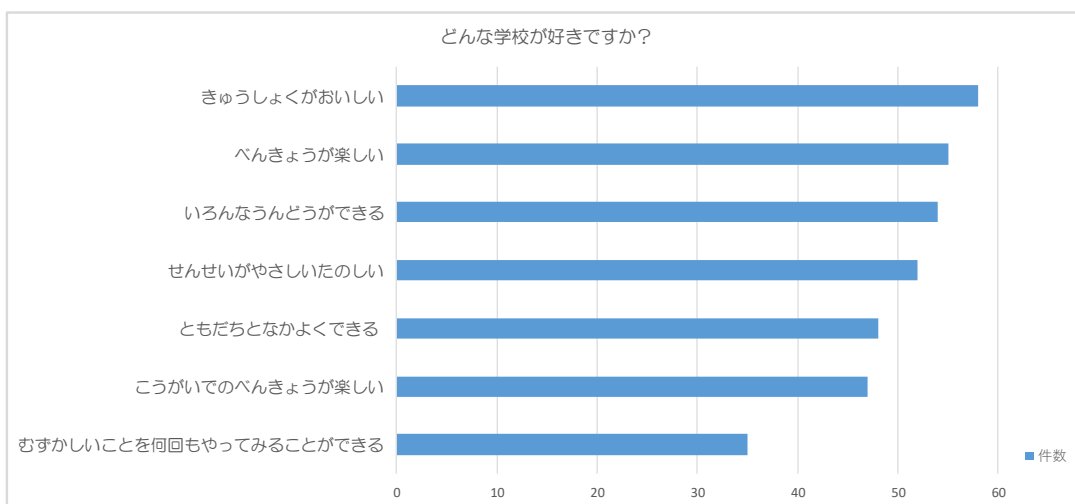
	おんがく	たいいく うんどう	きゅうしよく	こうがい がくしゅう	すこう	ともだちと あそぶ	がっこう ぎょうじ	こくご さんすう
件数	34	34	33	30	29	22	19	19

㉘【特別支援学校】中学部

全体回答数

36

1. どんな学校が好きですか？



	きゅうしよくが おいしい	べんきょうが 楽しい	いろんないろん なことができる	せんせいが やさしい	ともだちと なかよく できる	こうがいで べん きょうが 楽しい	むずかしい ことを 何度も やってみ る こと が でき る
件数	58	55	54	52	48	47	35

【その他】

・ダンスがしたい ・がっこうが好きです ・好きなことをやりたい ・先生や友だちと話しをする学校

5 用語解説

あ行		ページ
イヤーマフ	耳全体を覆うタイプの防音保護用具。主に聴覚過敏等のある児童・生徒が、周囲の不快な音を遮断し、集中したい時や落ち着きたい時などに使用する。	10
インクルーシブ教育システム	障害者の権利に関する条約第 24 条から、人間の多様性の尊重等の強化、障害者の精神的・身体的な能力を可能な最大限まで伸長させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的のもと、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。(文部科学省:「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教の推進(報告)概要」より)	1,2,4,
インタラクティブボード	電子黒板(描いた内容を電子的に変換することが可能なホワイトボード)のこと。	20,21
オーディオメーター	純音を用いて聴力を測定する機器。音の周波数および強さをダイヤルによって調節し、さまざまな質の音を電氣的に発することができる。区立小・中学校の難聴・言語障害通級指導学級設置校4校及び済美養護学校に設置されている。	19,20,43
か行		ページ
介助員ボランティア	活動内容は、通常学級支援員と同じ。地域の特別支援教育に理解のある方が介助員ボランティアとして登録し、学校からの要請により、活動できる日に概ね4時間程度、校内で活動するボランティア。	12,13,27,38,40
学習支援教員	通常の学級において、学習面で困難を抱える児童・生徒のために、一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別的な支援を行うために派遣される教員。	12,13,39,
学齢期発達支援事業	通常の学級に在籍する1年生から3年生で、自閉スペクトラム症などの診断がある発達障害児を対象に、社会生活を円滑に行えるようにすることを目的に、学校と連携を図りながら、発達課題への支援、保護者に対する助言を行う、障害者施策課で実施している事業。	27,28,47
学校生活支援シート	教育上特別な支援が必要とする幼児・児童・生徒一人ひとりのニーズを把握し、必要な支援を行うことができるよう、長期的な視点で学齢期を通じて一貫して適切な支援を行うことを目的として作成するもの。この作成には、教育のみならず、福祉、医療、保健、労働等の様々な側面からの取組を含めて関係機関、関係部局の密接な連携・協力が不可欠。特別支援学校学習指導要領で規定されている「個別的教育支援計画」と同じ役割で、東京都教育委員会における同計	10,11,12,18,24,35,38,45,46,

	画の呼称。	
教育支援委員会	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に対し、一人ひとりのニーズに応じた適切な就学の支援に加え、その後の一貫した支援について助言を行う等の目的で教育委員会が設置する委員会。委員会の構成員は、医師、教育職員、心理士等のほか、児童福祉施設職員など各分野の専門家。	23,55
教育支援チーム	発達障害等の支援を必要とする幼児・児童・生徒の校内（園）における支援について、専門的な視点から学校（園）に助言を行うため巡回訪問を行う教職員及び心理士で構成されるチーム。	3,11,12, 13,14,15, 34,35,40
拠点校	特別支援教室の拠点校。杉並区においては、小学校に10 拠点校があり、巡回指導教員が拠点校を含め、4 校を巡回して、特別支援教室利用の児童を指導する。また、中学校には3つの拠点校があり、7 校から8校を担当している。	12,15,16, 18,42
校内委員会	学校内における全体的な特別支援教育に関する支援体制を整備するための委員会。構成員としては、校長、副校長、生活指導主任、特別支援教育コーディネーター、担任、養護教諭、学年主任などのほか、必要に応じて外部の関係者で構成される委員会。	10,11,12, 14,15,21, 23,37,38, 40
合理的配慮	障害者権利条約、障害者差別解消法で規定している、障害を理由に日常生活や社会生活で受ける様々な制限をもたらす原因となる社会的障壁を取り除くために、障害のある人に対し、個別の状況に応じて行う配慮。	9,10,11, 13,
交流及び共同学習	障害のある子どもと障害のない子どもとが活動を共にする機会。（両者が一緒に参加する活動は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があるものと考えられ、二つの側面は分かちがたいものとしてとらえている。）	2,10,11, 26,34,36
個別指導計画	教育上特別な支援が必要な児童・生徒について、学校での学習や生活上の課題を明らかにし、その課題を解決するための目標を定め、指導の手立てや達成状況を記録したものの。	10,11,12, 18,24,31, 36,38,39, 40,45,46

さ行

ページ

自立活動

適切な言葉遣いや表現方法を身に付けるための、友達との遊びや会話の場面を想定した表現の練習や、体の使い方や姿勢の保持の習得に向けて、バランス感覚や触覚、運動感覚を高める運動を行うなどの指導内容のこと。特別支援学校学習指導要領において、身体の動きやコミュニケーション、環境の把握等の6区分27項目にまとめられている。

33

すばるⅠ	就学相談資料の一つで、就学支援相談を受ける際の「就学支援ファイル（就学相談票）」のこと。 就学前と就学後の切れ目ない 相談支援の実現を目指し、子どもの様子、発達の段階に応じた適切 な教育環境 について話し合うために、保護者が記入して就学支援相談時に区に提出します。	24
すばるⅡ	乳幼児期から学齢期への支援の継続を図るため、就学前の子どもの家庭・子供園・幼稚園・保育園・療育機関での様子や保護者の思いなどを記入して、保護者が子どもの就学先に提出し、就学後の支援に役立てるもの。	11,12,24,45,46
センター的機能	特別支援学校が、地域の幼稚園や小学校、中学校、高校等における特別支援教育の推進・充実に向けて、各学校や区市町村教育委員会等の要請に応じて必要な助言や援助を行う機能のこと。（平成29年3月「東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画」）	20,21,32,42,
専門家診断	難聴・言語障害の専門家（大学教授や言語聴覚士等）を招聘し、個別の事例検討において専門的な視点から意見や助言を受けて指導に生かしたり、また保護者へ情報提供し家庭での支援につなげてもらう等、指導担当者の資質能力及び指導の質の向上や、保護者への理解啓発を図る取組。	19,20
専門家チーム	教育委員会の指導主事、心理士、済美養護学校特別支援教育コーディネーター、医師等で構成し、教育支援チームでは対応が困難なケースの場合に招集し、知的障害や知的障害のない発達障害の判断や望ましい教育的対応及び環境について専門的な見地から助言する専門家のチーム。	12,40

た行		ページ
タブレット端末	画面を直接触って操作する、携帯できる情報端末のこと。	18,20,21,39
地域子育てネットワーク	全小学校区で児童館や子ども・子育てプラザを事務局として実施する事業。地域の課題やニーズに合わせた講演会やまつり等の事業により世代を超えた区民の交流を図るとともに、行政機関や地域団体等との連絡会を開催し、地域で子育て家庭を見守り、支援していくネットワーク。	26,27
通常学級支援員	小・中学校の通常の学級において、障害のある児童・生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助を行ったり、発達障害の児童・生徒に対し、学習活動上のサポートを行う支援員。教育委員会が必要とする学校に配置。	3,12,13,39
特別支援学級	小・中学校等において知的障害、言語障害、難聴等の障害のある児童生徒に対し、障害による学習上又は生活上の困難を克服するために設置される学級。杉並区においては区立小学校 10 校、中学校 6 校に知的障害特別支援学級（固定級）と区立小学校 3 校、中学校 1 校に難聴言語通級指導学	3,6,10 他

級を、また全ての区立小・中学校に特別支援教室を設置している。

〈知的障害特別支援学級〉

知的発達遅れの遅れ、言葉や文字による他人との意思相違に軽度の難しさがあるため、日常生活を送るうえで一部援助が必要で、社会生活への適応に困難がある子どもを対象としている。住所によって指定された通学区域の学校に、毎日通って学習をする。

特別支援学校	<p>障害のある児童・生徒に対して、小学校、中学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図れるよう必要な知識技能を身に付けることを目的とする学校。杉並区には、都内で唯一の区立知的障害特別支援学校である済美養護学校が設置されている。</p> <p>〈知的障害特別支援学校〉</p> <p>知的発達遅れの遅れ、言葉や文字による他人との意思疎通の難しさがあるため、日常生活を送るうえで頻繁に援助を必要とし、社会生活への適応が著しく困難な子どもを対象としている。</p>	3,6,14 他
特別支援教育コーディネーター	<p>学校内の関係者や福祉・医療等の関係機関との連絡調整及び保護者に対する学校の窓口として、校内における特別支援教育に関するコーディネーター的な役割を担う教員。</p>	10,14,15, 21,25,34, 38,40,42
特別支援教育支援把握状況表	<p>特別支援教育対象の児童・生徒の実態や支援の状況を把握し、支援体制や関係機関との連携等を検討し学校経営に役立てるためのツール。</p>	10
特別支援教室	<p>知的発達に遅れがない発達障害、情緒障害があり、一部特別な指導を必要とする子どもを対象とする。普段は在籍学級で学校生活を送り、決められた日時だけ校内の別の部屋で自立活動の指導を受ける。全ての区立小・中学校に設置されている。</p>	3,6,10 他
特別支援教室巡回指導教員	<p>特別支援教室において自立活動の指導を担当する教員。また、特別支援教室における指導だけでなく、学級担任等への在籍学級での配慮の助言や、校内委員会への参画等、特別支援教室の運営に関する業務を担当する。拠点校を本務校とし、エリアの学校を巡回して、特別支援教室での指導等を行う。</p>	12,34

は行		ページ
副籍制度	特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の小・中学校に副次的な籍（副籍）をもち、直接的な交流（学校行事や地域行事等における交流等）や間接的な交流（学校・学年・学級だよりの交換等）を通じ、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る制度。	10,26
ペアレントトレーニング	子育てに取り組む保護者が、子どもへの対応を振り返り、効果的で実践的な関わり方を学ぶプログラム。	24,25
その他		ページ
ICT	Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略で、日本ではすでに一般的となったITの概念をさらに一歩進め、IT＝情報技術に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。	16,17,18, 20,21,32, 33,34,35, 36,39

杉並区特別支援教育推進計画

令和4～6年度（2022～2024年度）

令和4年度版

登録印刷物番号

令和4年5月発行

04-0020

編集・発行 杉並区教育委員会事務局

特別支援教育課

杉並区成田西2-24-21

TEL (03) 5929-9481